

2025年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市 産業経済部 観光課

1. 概要

2025 年（1 月～12 月）の観光入込客数は、2024 年の 120 万 9,100 人から 8.2%増の 130 万 8,300 人となった。新型コロナウイルス感染拡大（以下：コロナ）前の 2019 年の 125 万 2,000 人からは 4.5%増となった。これは、「中山大藤まつり」や「柳川ひまわり園」のイベントの入込客が増加したことや、外国人観光客が増加したことなどが要因と考えられる。全国的に見ると、訪日外国人旅行者数は過去最高を記録しているものの、日本人の国内旅行は 2019 年の 8 割程度にとどまっている（出典：観光白書）。コロナ禍と比較すると大幅な回復となっており、2019 年の数値を上回っている。

観光消費額は、2024 年の 68 億 9,859 万円から 10.8%増の 76 億 4,324 万円となり、過去最高を記録した。コロナ前の 2019 年の 63 億 2,277 万円からは 20.9%増となった。1 人当たりの消費額は 2024 年の 5,706 円から 2.4%増、2019 年の 5,050 円から 15.7%増の 5,842 円となった。（2024 年比 136 円増、2019 年比 792 円増）。

宿泊客数は、2024 年の 12 万 268 人から 5.7%増の 12 万 7,151 人となり、過去最高を記録した。コロナ前の 2019 年の 10 万 584 人からは 26.4%増となった。宿泊割合の高い外国人観光客の増加や、福岡県独自の旅行支援策である「ふくおか平日おトク旅」観光キャンペーンの実施などによる影響があったと考えられる。

宿泊率は、2024 年の 9.9%から 0.2%減の 9.7%で、2019 年の 8.0%より 1.7%増となった。

交通用具別の入込客数は、自家用自動車利用者が 2024 年の 74 万 8,000 人から 9.0%増の 81 万 5,200 人、西鉄電車利用者が 2024 年の 30 万 600 人から 3.7%増の 31 万 1,700 人、大型バス利用者が 2024 年の 16 万 500 人から 13.0%増の 18 万 1,400 人となった。

交通用具別の割合は、自家用自動車利用者が 62.3%、西鉄電車利用者が 23.8%、大型バス利用者が 13.9%の割合となっている。2024 年と比較して、すべての交通手段で入込客数が増加している。

（参考：2024 年は自家用自動車利用者：61.9%、西鉄電車利用者：24.9%、大型バス利用者：13.3%、コロナ前の 2019 年は自家用自動車利用者 57.4%、西鉄電車利用者 29.2%、大型バス利用者 13.3%）

外国人観光客数は、2024年の20万7,327人から24.6%増の25万8,329人となり、過去最高を記録した。コロナ前の2019年の19万6,403人からは31.5%増となった。これは、コロナ後の訪日需要の高まりや円安の影響、近隣空港における国際便の増便などが要因と考えられる。

川下りの利用者数は、2024 年の 40 万 7,016 人から 10.0%増の 44 万 7,671 人となり、過去最高を記録した。コロナ前の 2019 年の 36 万 5,266 人からは 22.6%増となった。これは、川下りを行う割合の高い外国人観光客が 2024 年よりも増加したことが要因と考えられる。

【2025 年：福岡県独自の旅行支援】

- 「ふくおか平日おトク旅」観光キャンペーン実施期間
 - ◆ 2025 年 5 月 7 日～7 月 18 日
 - ◆ 2025 年 12 月 1 日～12 月 26 日

【2024 年度～2025 年度：福岡県修学旅行バス支援事業】

- 実施期間
 - ◆ 2024 年 4 月 1 日～2025 年 2 月 28 日
 - ◆ 2025 年 4 月 1 日～2026 年 2 月 28 日

【2024 年度～2025 年度：柳川観光 2025 指針主要事業】

- 修学旅行誘致実施期間
 - ◆ 2024 年 7 月 2 日～2025 年 3 月 31 日
 - ◆ 2025 年 5 月 7 日～2026 年 2 月 28 日

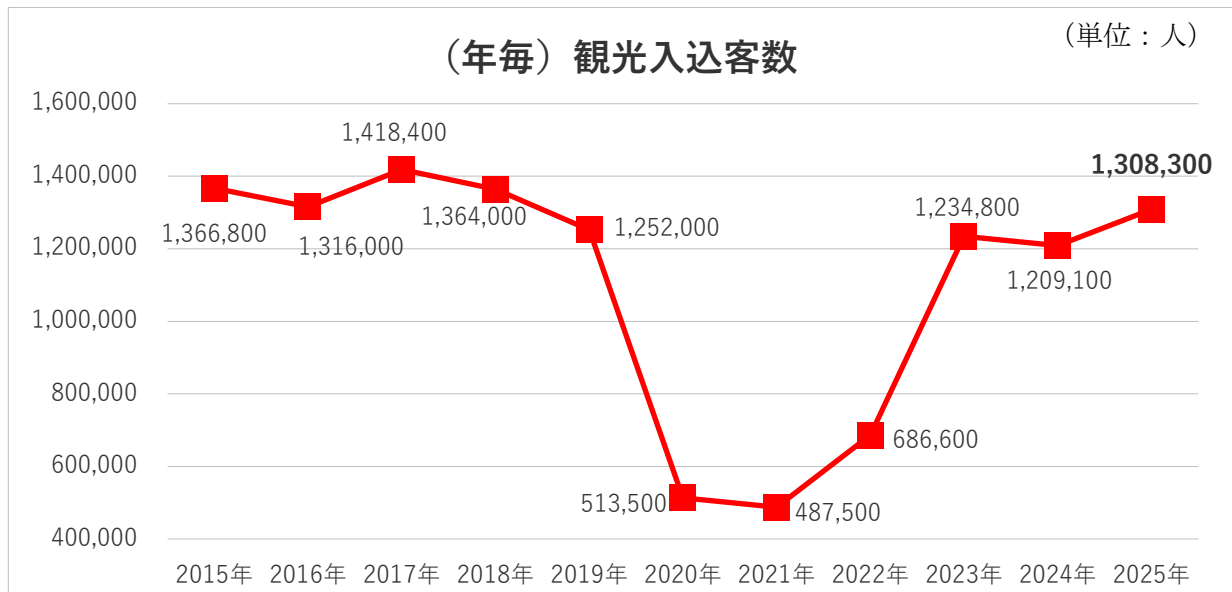
【2025 年度：その他】

- 灯り舟運航事業実施期間
 - ◆ 2024 年 7 月 18 日～10 月 6 日

2. 観光入込客数

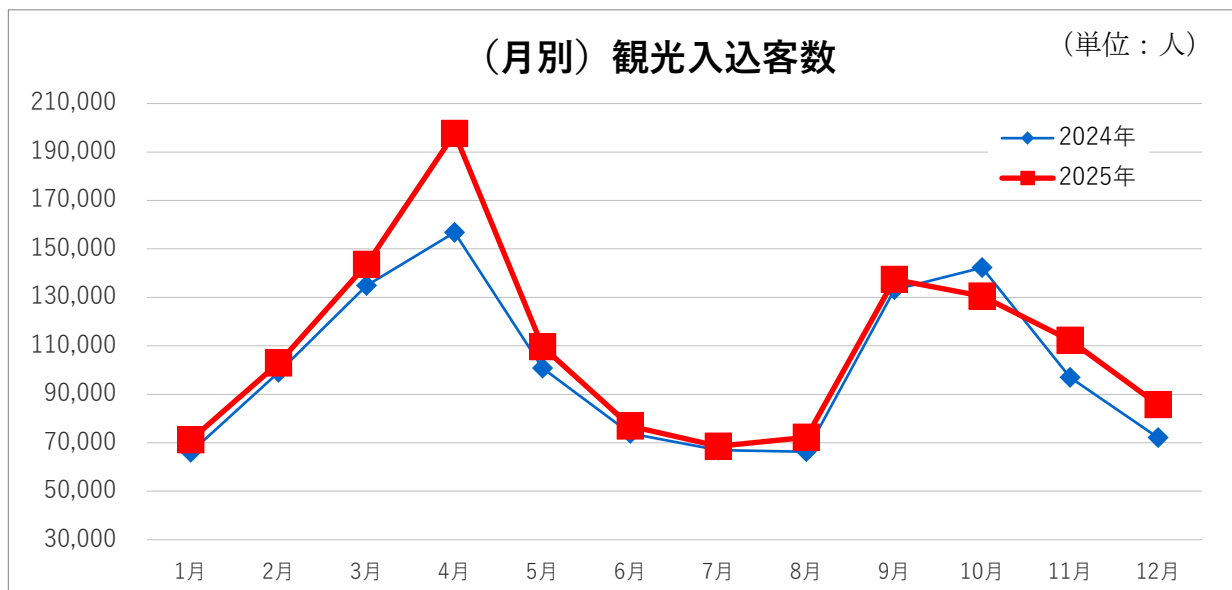
(1) 観光入込客数の推移

観光入込客数は、2024年の120万9,100人から8.2%増の130万8,300人となった。コロナ前の2019年の125万2,000人からは4.5%増となった。これは、外国人観光客が大幅に増加したこと、「中山大藤まつり」等のイベントにおける入込客数の増加などが要因と考えられる。コロナ禍と比較すると大幅な回復となっているが、過去最高の数値を記録した2017年の141万8,400人までは至っていない。



(2) 月別観光入込客数

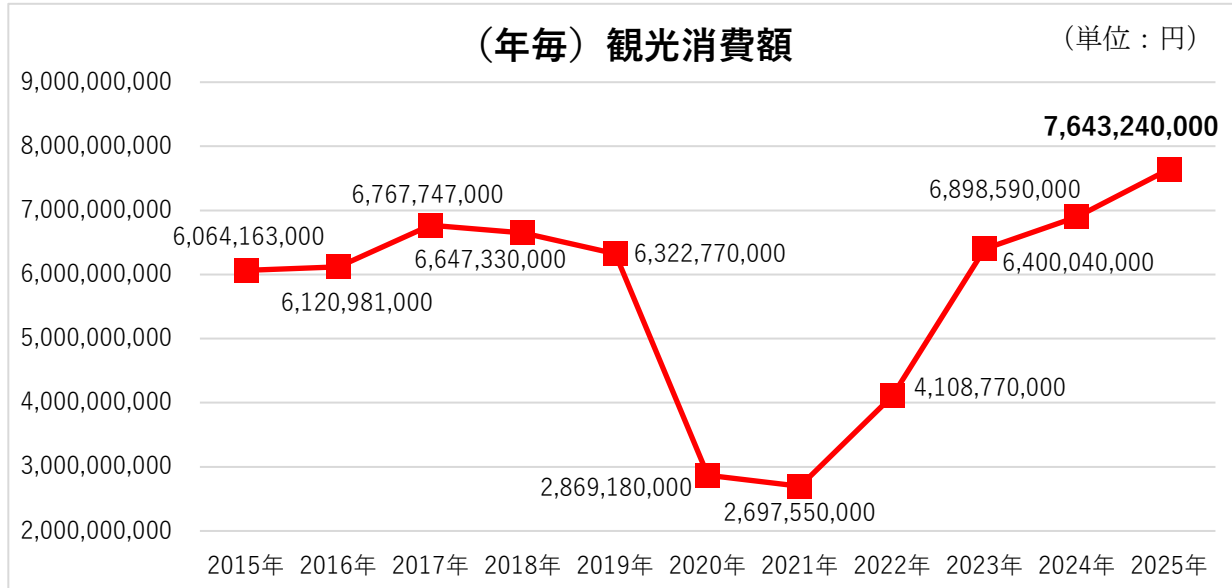
入込客数を月別にみると、4月が最も多く、春の観光シーズンや秋の行楽シーズンに入込客が増加している。これは、毎年2月11日から4月3日の期間で開催される「柳川雛祭り・さげもん巡り」や、4月15日から28日の期間で開催された「中山大藤まつり」による効果があったと考えられる。一方で、5月から8月にかけて減少しているのは、GW期間後の閑散期となること、梅雨や猛暑等の影響による観光客数の減少等が要因と考えられる。



3. 観光消費額

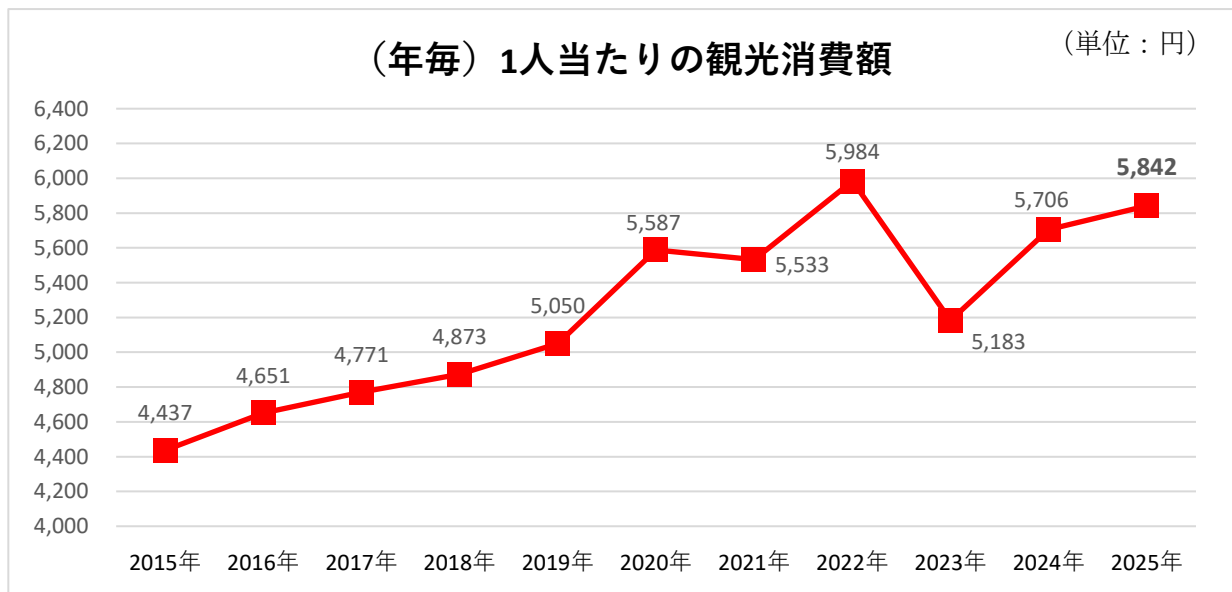
(1) 観光消費額の推移

観光消費額は、2024年の68億9,859万円から10.8%増の76億4,324万円となり、過去最高を記録した。コロナ前の2019年の63億2,277万円からは20.9%増となった。これは、2024年に引き続き円安を背景とした購買意欲の高い外国人観光客の増加、物価高による影響、消費額が大きい宿泊客数が過去最高を記録したことなどが要因と考えられる。



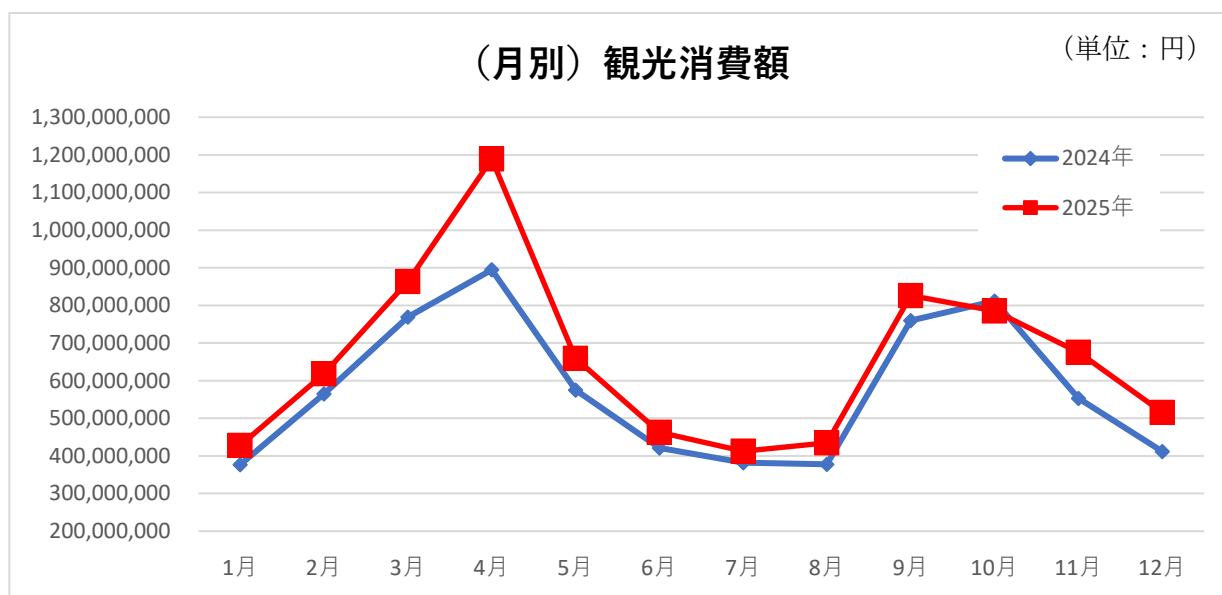
(2) 1人当たりの観光消費額の推移

1人当たりの消費額は、2024年の5,706円から2.4%増、2019年の5,050円から15.7%増の5,842円（2024年比136円増、2019年比792円増）となった。これは、2024年に引き続き購買意欲の高い外国人観光客の増加や物価高の影響に加え、消費額が大きい宿泊客数が伸びたことなどにより増加したと考えられる。



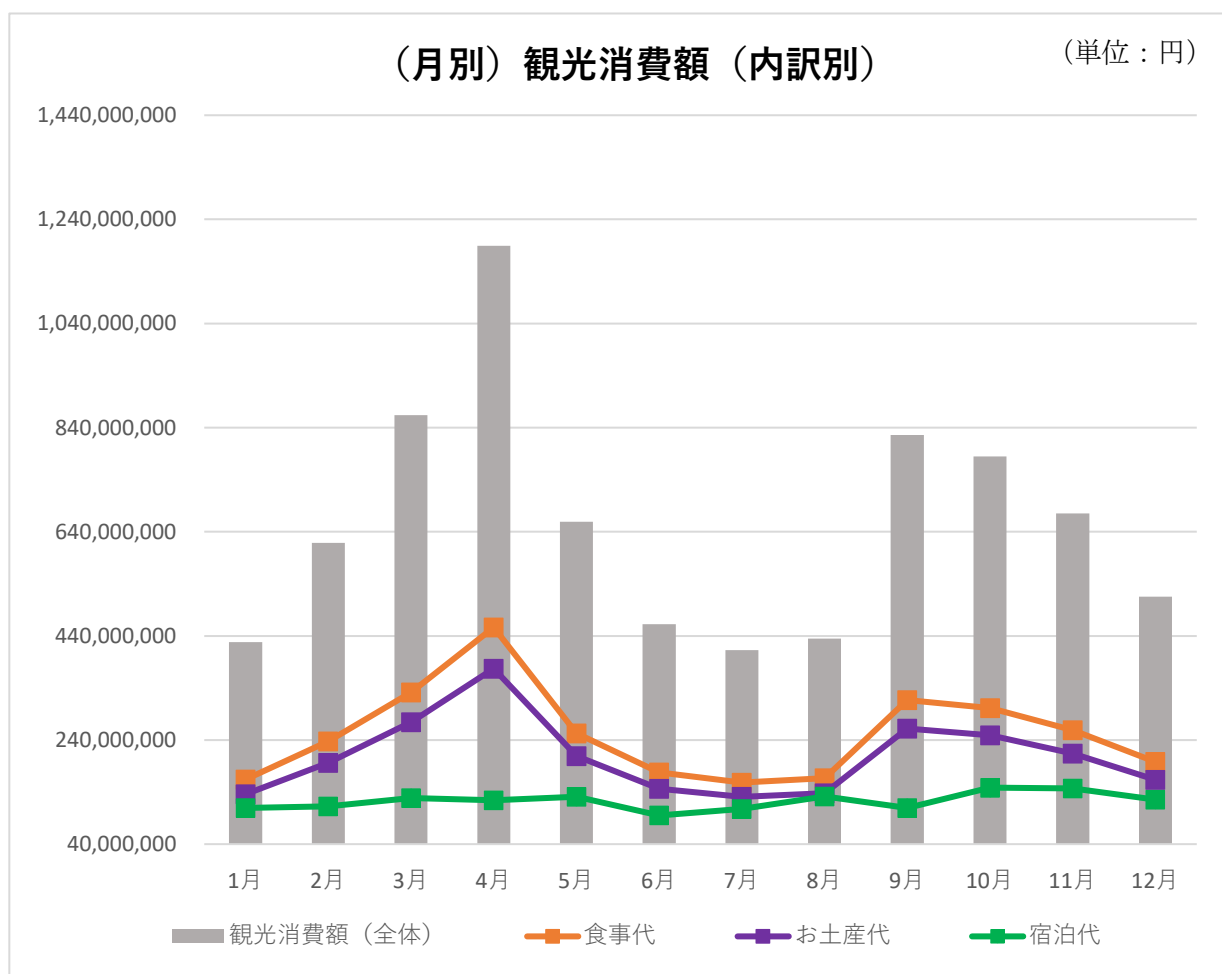
(3) 月別観光消費額

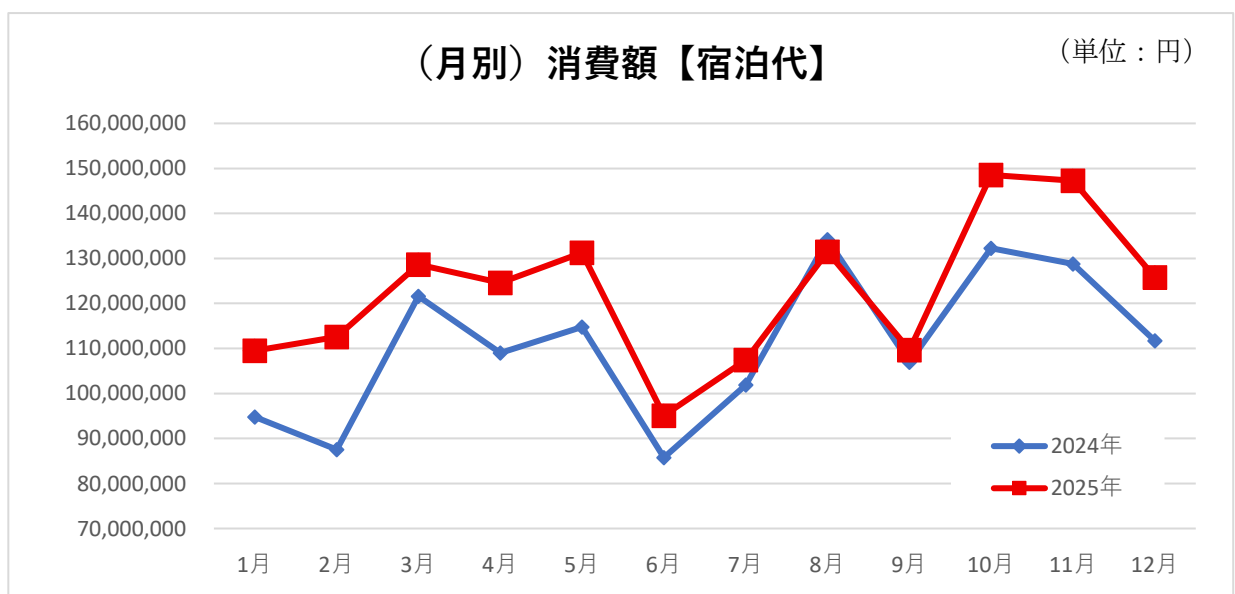
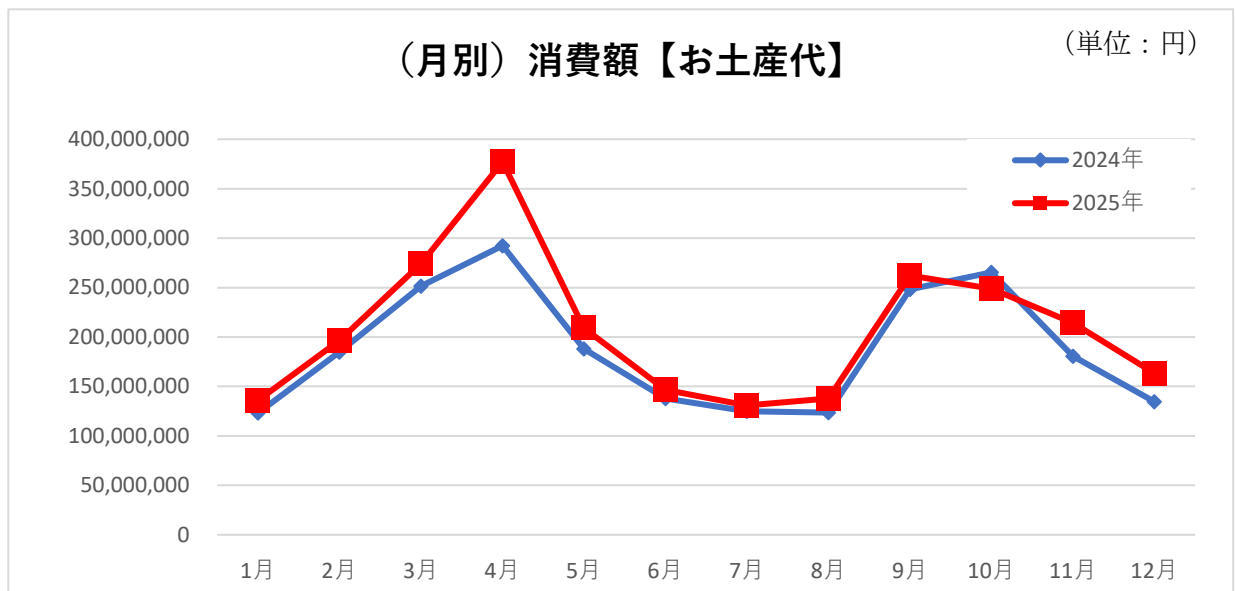
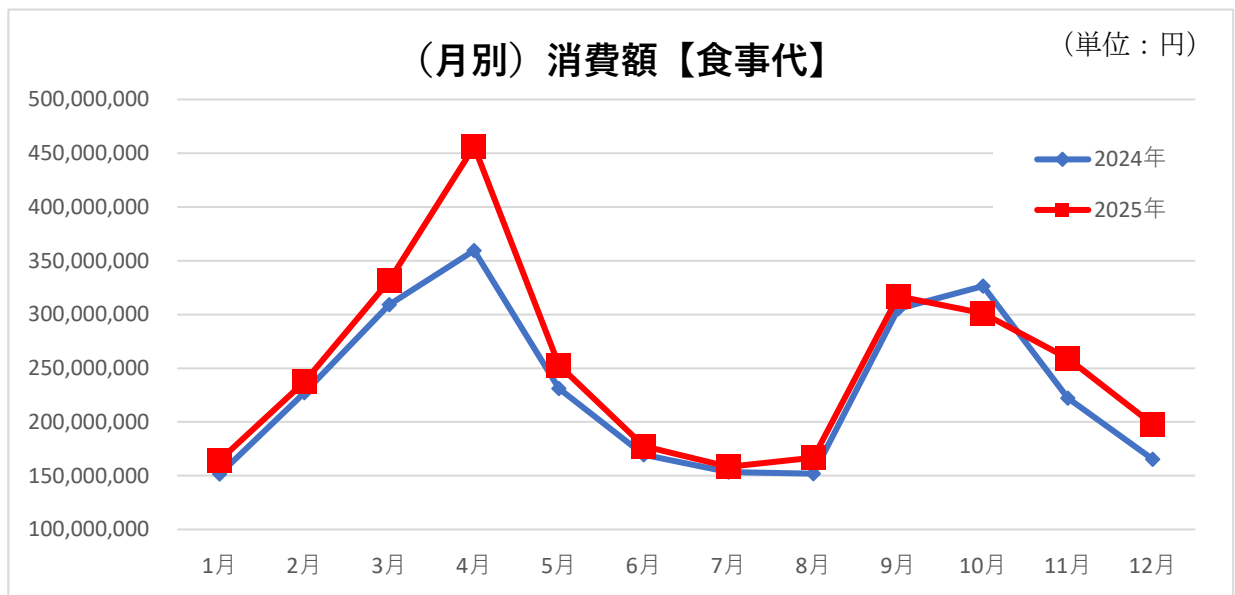
2025年の月別消費額は4月がピークで、次いで3月、9月の順となっている。



(4) 月別観光消費額（内訳別）

消費額の主な内訳は、食事代が、2024年の27億7,234万円から8.9%増の30億2,026万円(2019年の26億5,000万円から14.0%増)となり、お土産代が、2024年の22億5,439万円から10.7%増の24億9,642万円(2019年の22億3,700万円から11.6%増)、宿泊代が2024年の13億2,925万円から10.7%増の14億7,193万円(2019年の8億2,419万円から78.6%増)となった。



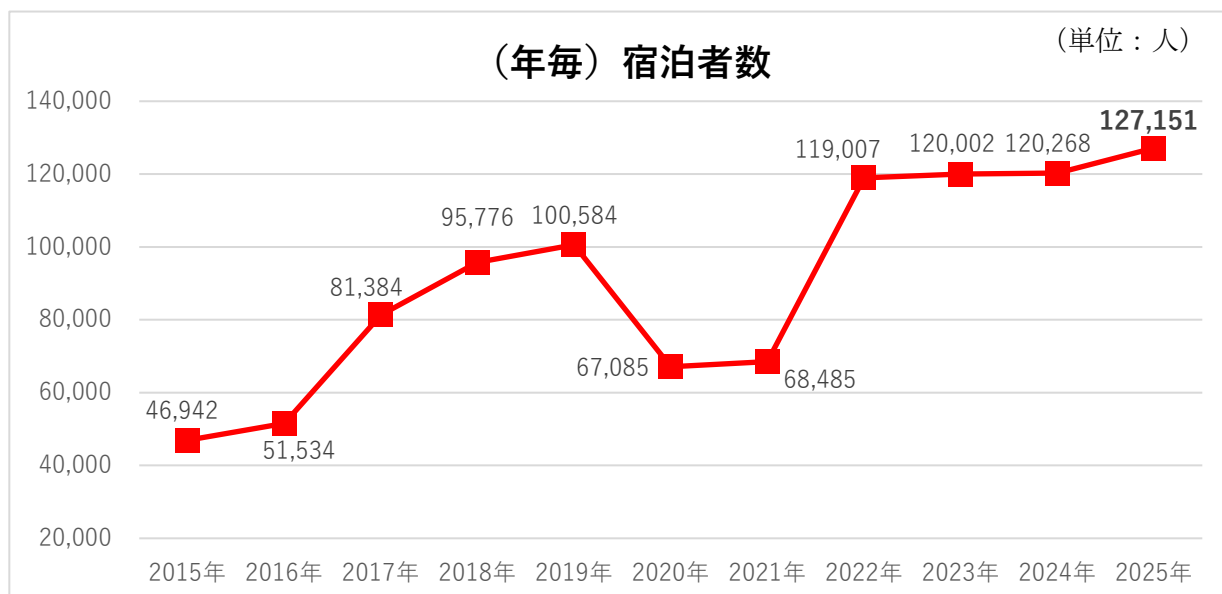


4. 宿泊客数

(1) 宿泊客数の推移

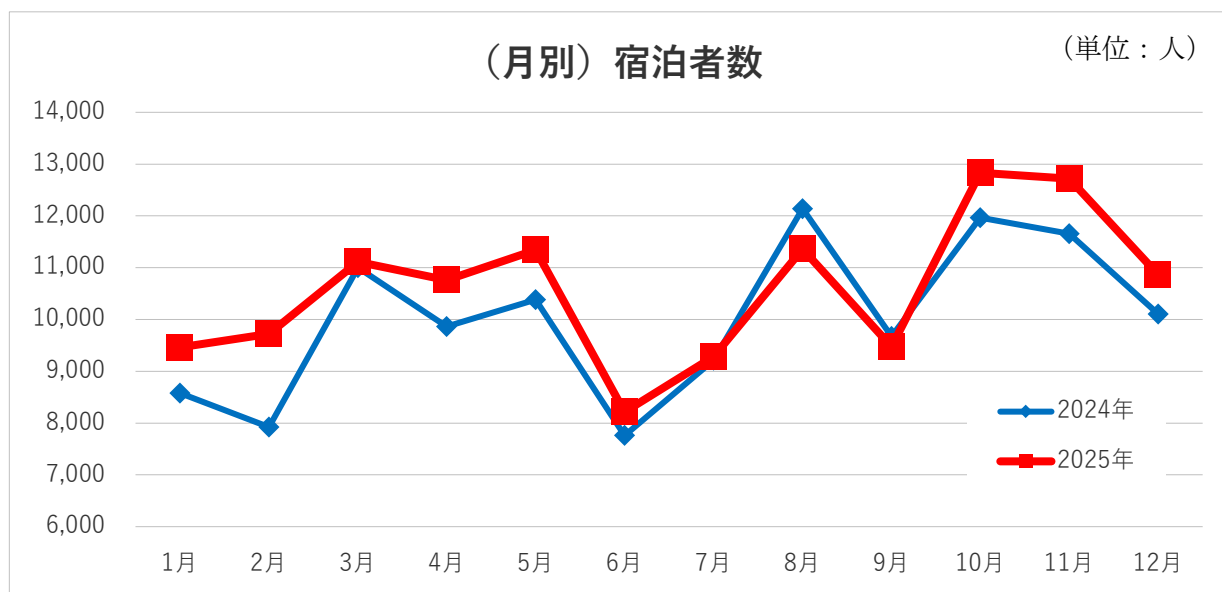
宿泊客数は、2024 年の 12 万 268 人から 5.7%増の 12 万 7,151 人となり、過去最高を記録した。コロナ前の 2019 年の 10 万 584 人からは 26.4%増となった。宿泊割合の高い外国人観光客の増加や、福岡県独自の旅行支援策である「ふくおか平日おトク旅」観光キャンペーンの実施などによる影響があったと考えられる。

宿泊率は、2024 年の 9.9%から 0.2%減の 9.7%で、2019 年の 8.0%より 1.7%増となった。



(2) 宿泊客数（月別）

2025 年の月別宿泊客数は 10 月がピークで、次に 11 月となっている。

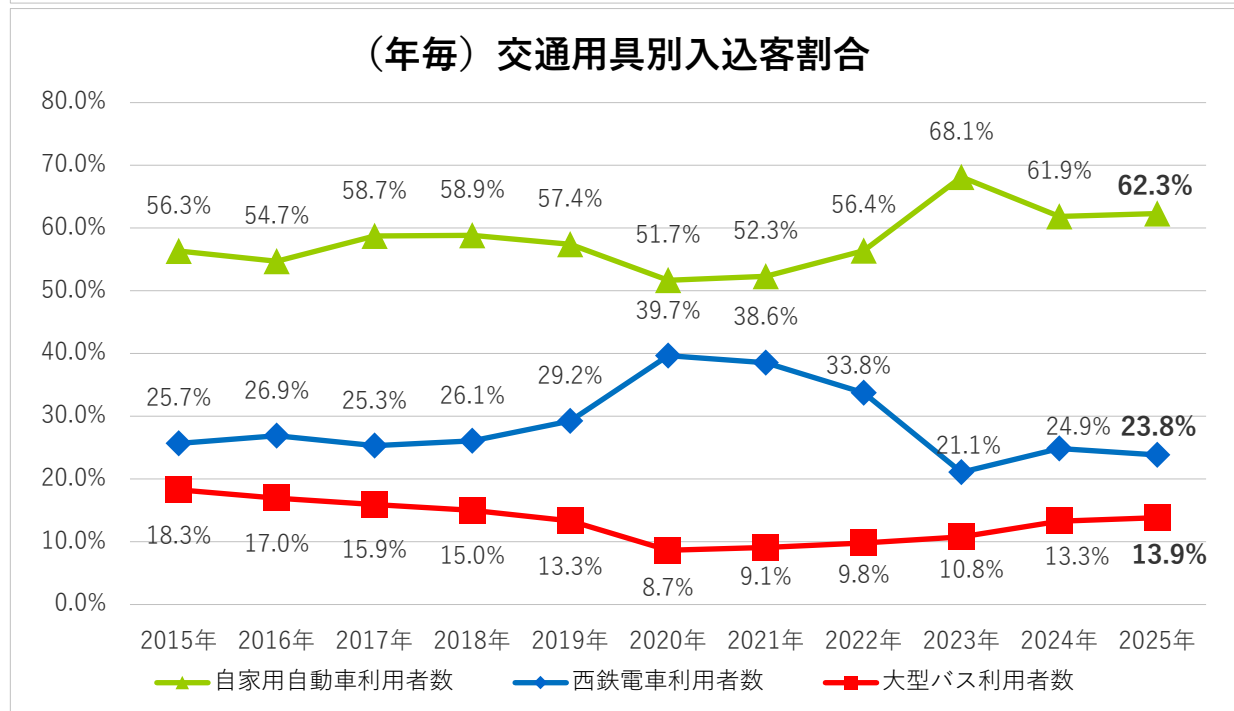
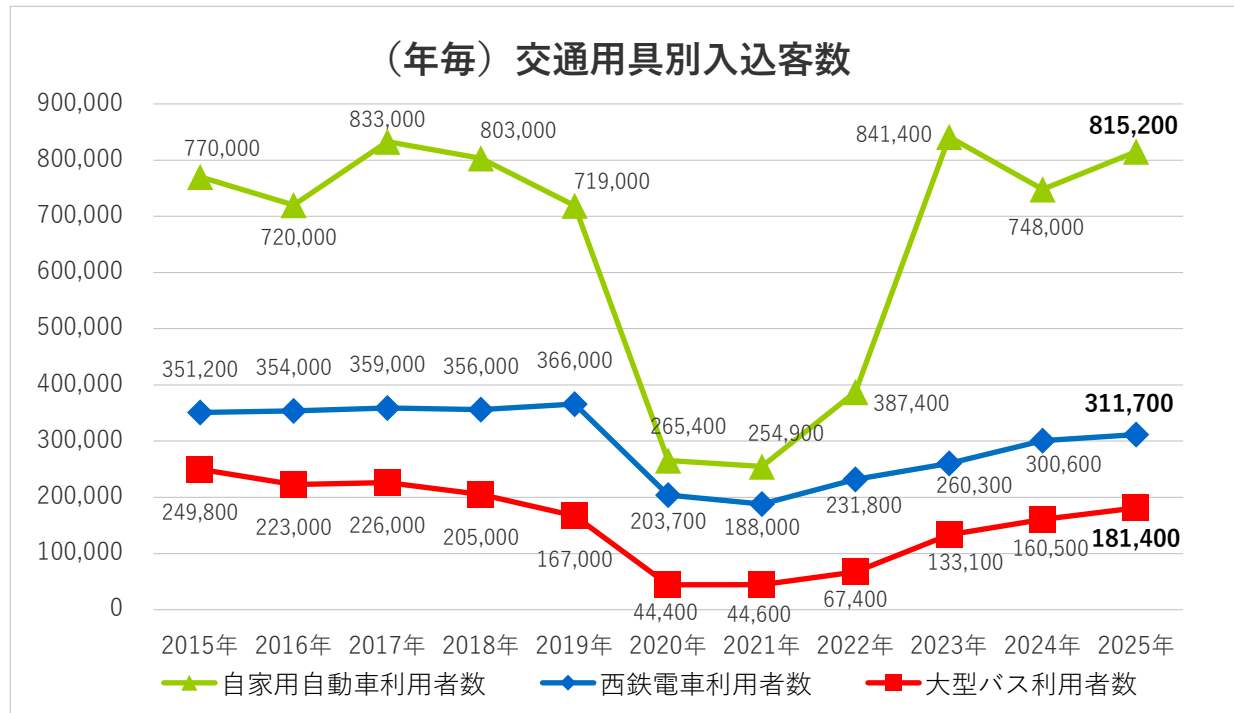


5. 交通用具別入込客数

(1) 交通用具別入込客数の推移

交通用具別の入込客数は、自家用自動車利用者が2024年の74万8,000人から9.0%増の81万5,200人、西鉄電車利用者が2024年の30万600人から3.7%増の31万1,700人、大型バス利用者が2024年の16万500人から13.0%増の18万1,400人となった。

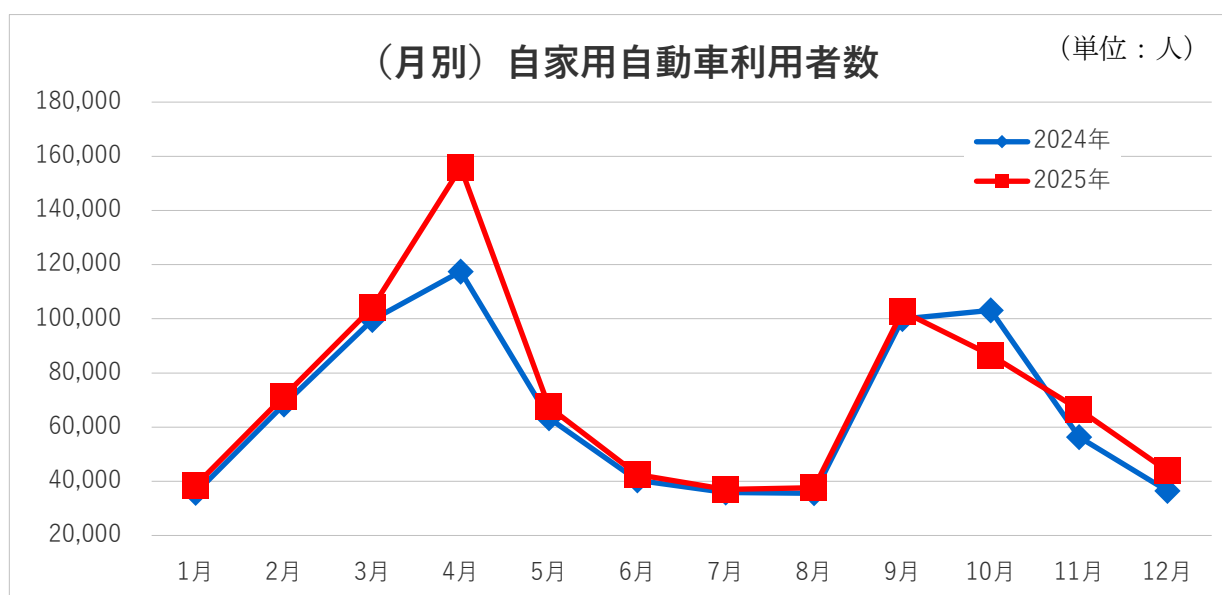
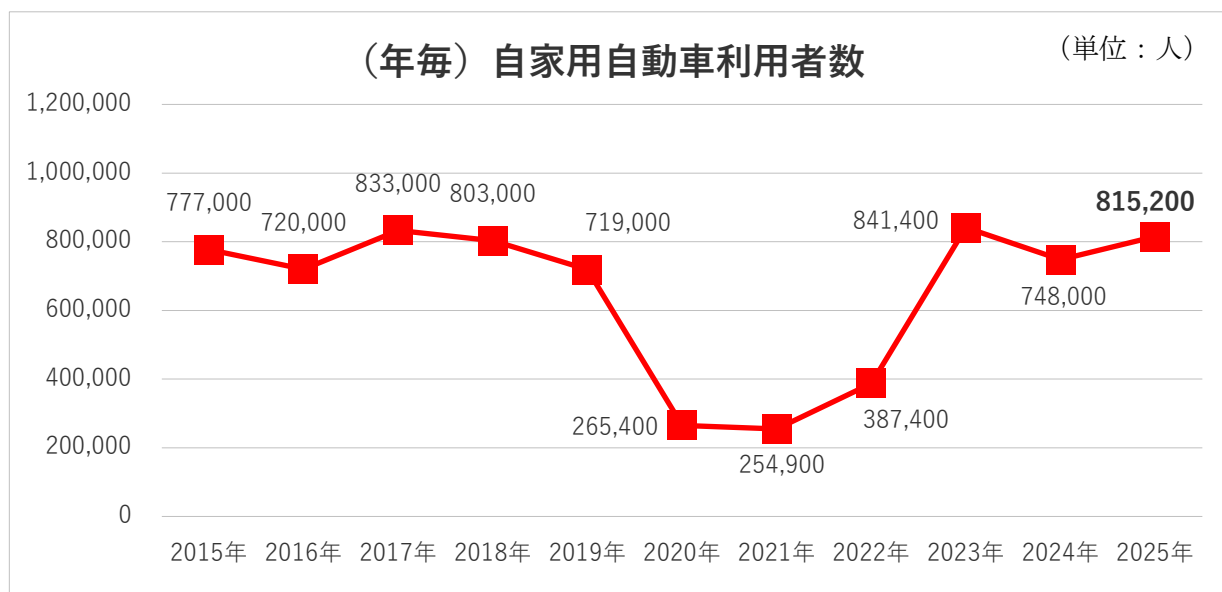
交通用具別の割合は、自家用自動車利用者が62.3%、西鉄電車利用者が23.8%、大型バス利用者が13.9%の割合となっている。2024年と比較して、すべての交通手段で入込客数が増加している。



(2) 自家用自動車利用者数の推移

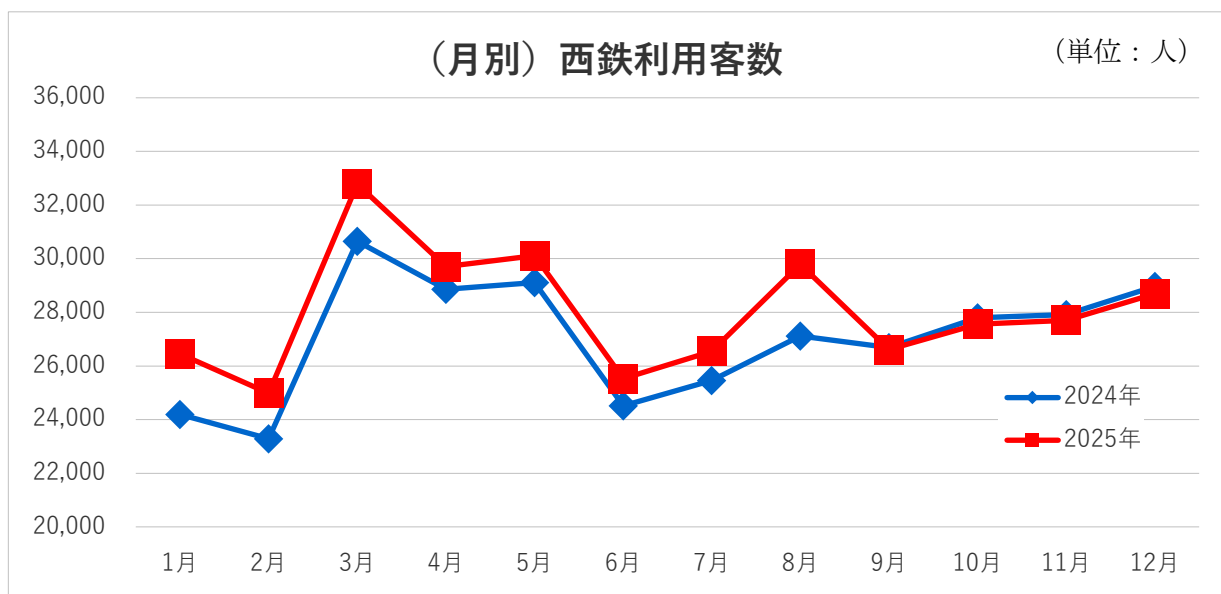
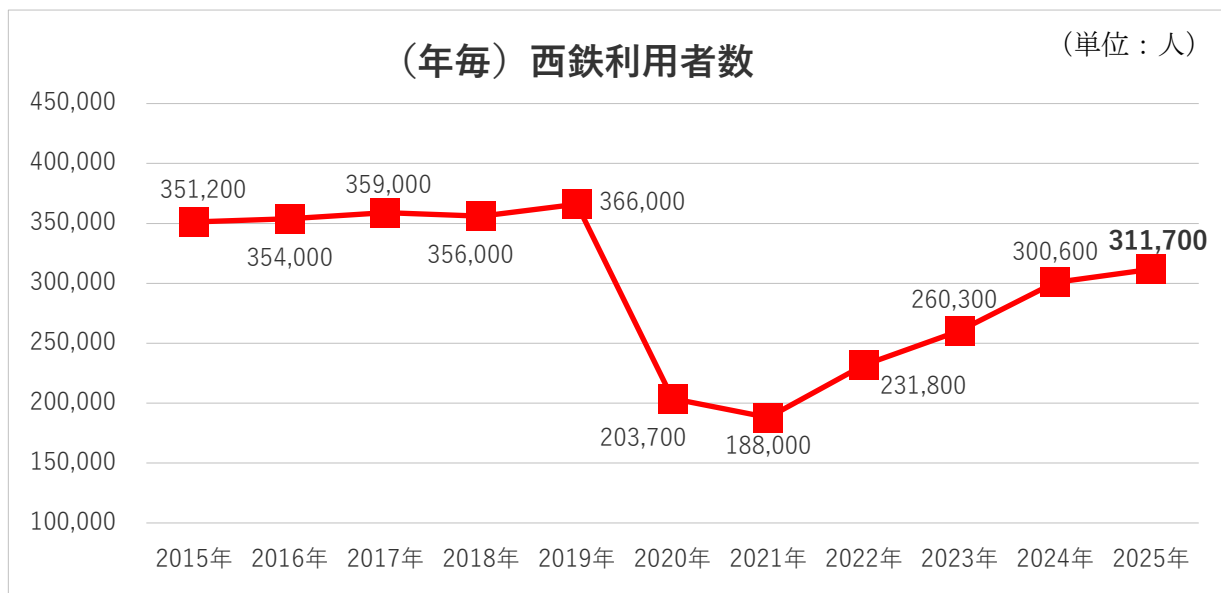
自家用自動車の利用者数は、2024年の74万8,000人から9.0%増の81万5,200人となった。コロナ前の2019年の71万9,000人からは13.4%増となった。「中山大藤まつり」や「ひまわり園」の入込客数が増加していることから、これらのイベントに訪れる観光入込客が自家用自動車を利用して訪れたため、増加したと考えられる。

月別においては、3月から4月にかけて多く、次いで9月から10月にかけて多くなっている。これは、自家用車を利用する傾向が高いイベント（3月：「柳川雛祭りさげもんめぐり」4月：「中山大藤まつり」、9月：「ひまわり園」）が開催されたことや、それらのイベントによる観光入込客数が増加したことが要因と考えられる。5月から8月にかけて減少しているのは、GW期間による団体旅行の増加や、GW期間後が閑散期となること、梅雨や猛暑等の影響による観光客数自体の減少などが要因と考えられる。



(3) 西鉄電車利用者数の推移（柳川駅）

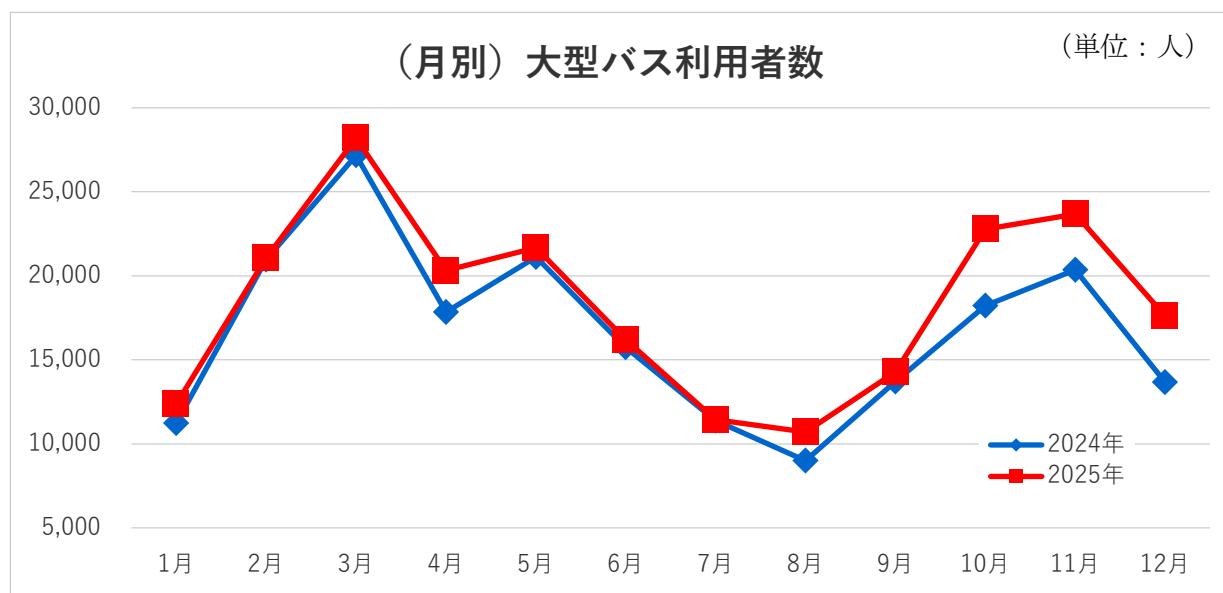
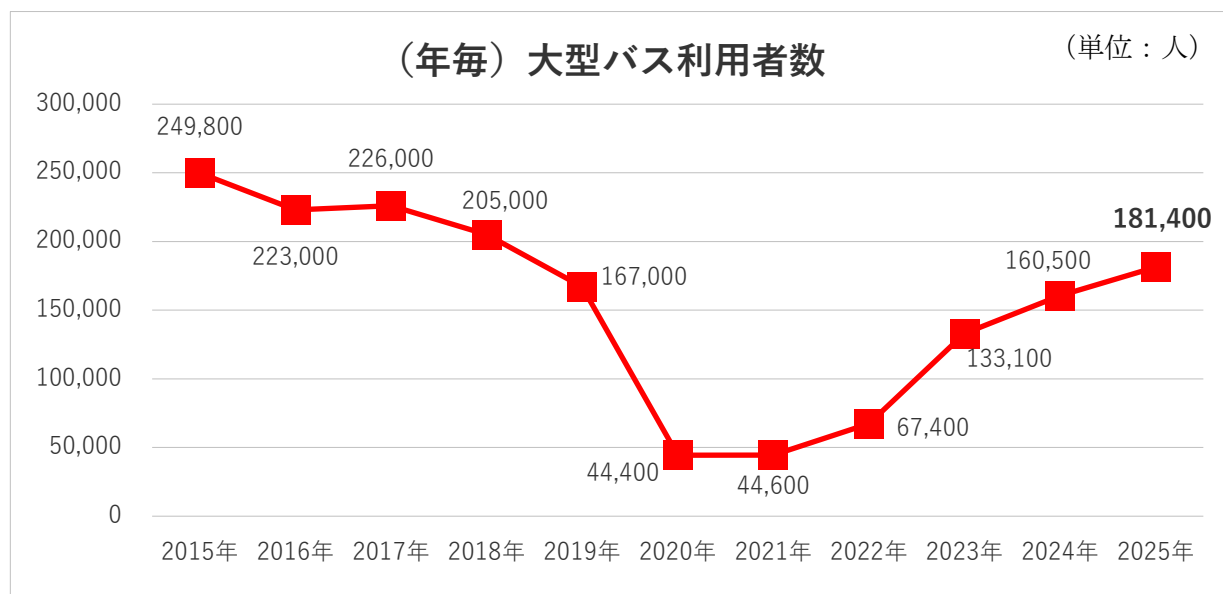
西鉄電車利用者数は、2024年の30万600人から3.7%増の31万1,700人となった。コロナ前の2019年の36万6,000人からは14.8%減となった。西鉄電車の柳川駅利用者（一般利用含む）は約400万674人（2024年約398万4,000人、2019年約422万6,000人）で、うち定期以外の利用者数約172万4,266人（2023年約116万3,000人、2019年約197万1,000人）であった。西鉄電車の利用者数は引き続き増加傾向にあるが、2019年の水準には戻っていない。



(4) 大型バス利用者数の推移

大型バス利用者数は、2024年の16万500人から13.0%増の18万1,400人となった。コロナ前の2019年の16万7,000人からは8.6%増となった。2024年と同様に、外国人観光客によるバスツアーなどの旅行が増加したことや、本市の「修学旅行誘致事業」の実施により、大型バスの利用者数は増加傾向にある。交通用具別の入込客割合では最少の13.9%となったが、2024年の13.3%からは増加であり、コロナ前の2019年と比較しても増加となるなど、比率においても上昇傾向にある。

また、月別においては、雛祭り期間である3月と、GWである5月、バスツアーなどの団体での旅行が多い外国人観光客が増加している10月から11月にかけての利用が多くなっている。

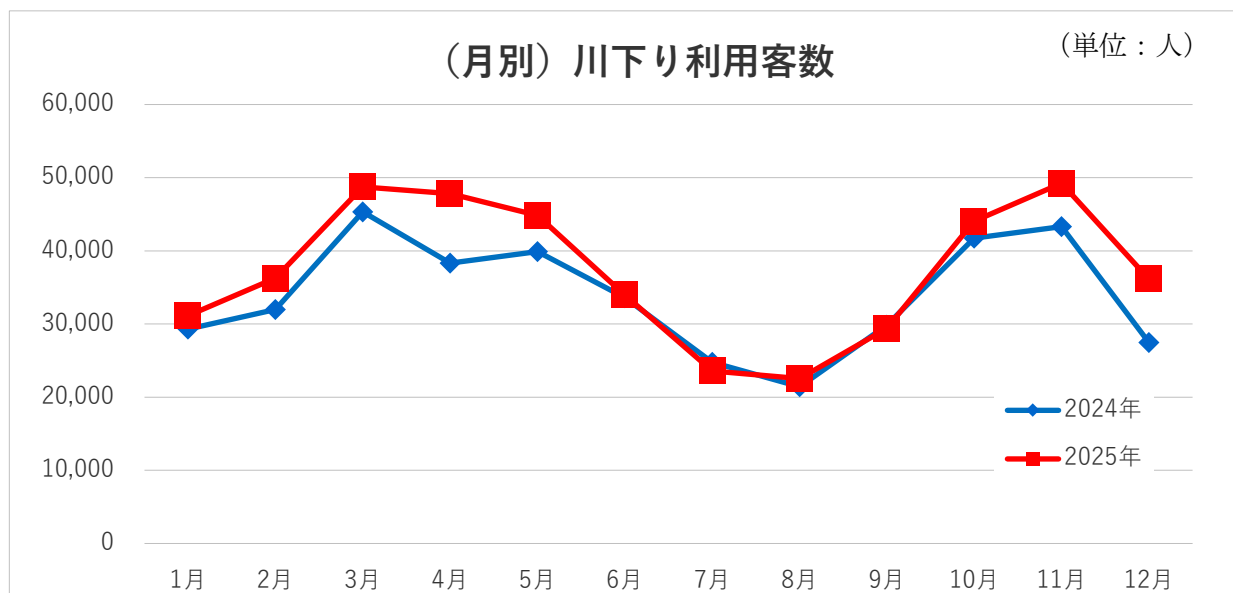
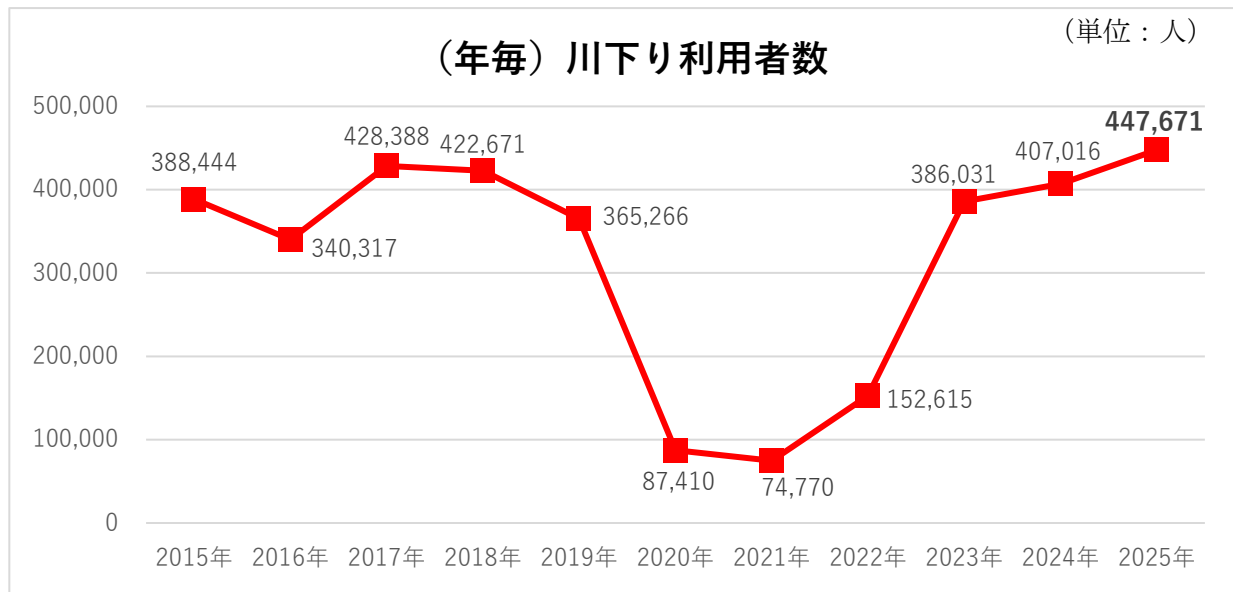


6. 主な観光施設の入込客数

(1) 川下り利用者数の推移

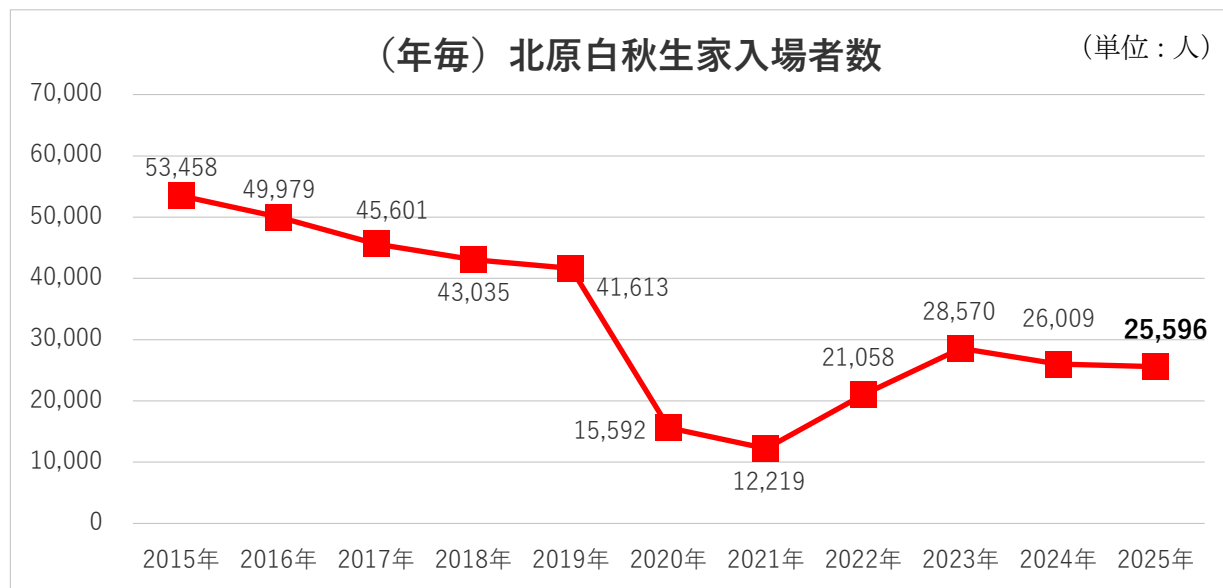
川下りの利用者数は、2024年の40万7,016人から10.0%増の44万7,671人となり、過去最高を記録した。コロナ前の2019年の36万5,266人からは22.6%増となった。これは、川下りを行う割合の高い外国人観光客が2024年よりも増加したことが要因と考えられる。

月別でみると、季節柄、観光入込客が増加する3月から5月、10月から11月にかけての利用者が多い。



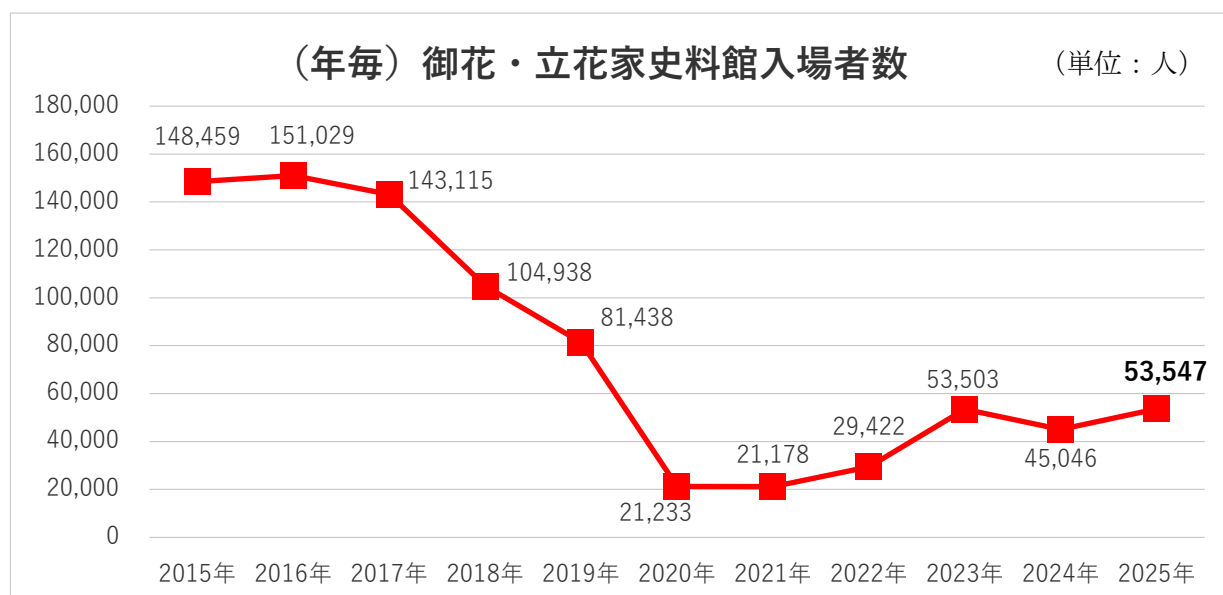
(2) 北原白秋生家・記念館入場者数の推移

北原白秋生家・記念館の入場者数は、2024年の2万6,009人から1.6%減の2万5,596人となった。コロナ前の2019年の4万1,613人からは38.5%減となった。これは、福岡県内外全ての小中学生の入場料金が無料になる「子ども美術館・博物館無料鑑賞事業」が2024年3月まで実施されていたが、2025年では実施されなかったことにより、入場者数が減少したと考えられる。



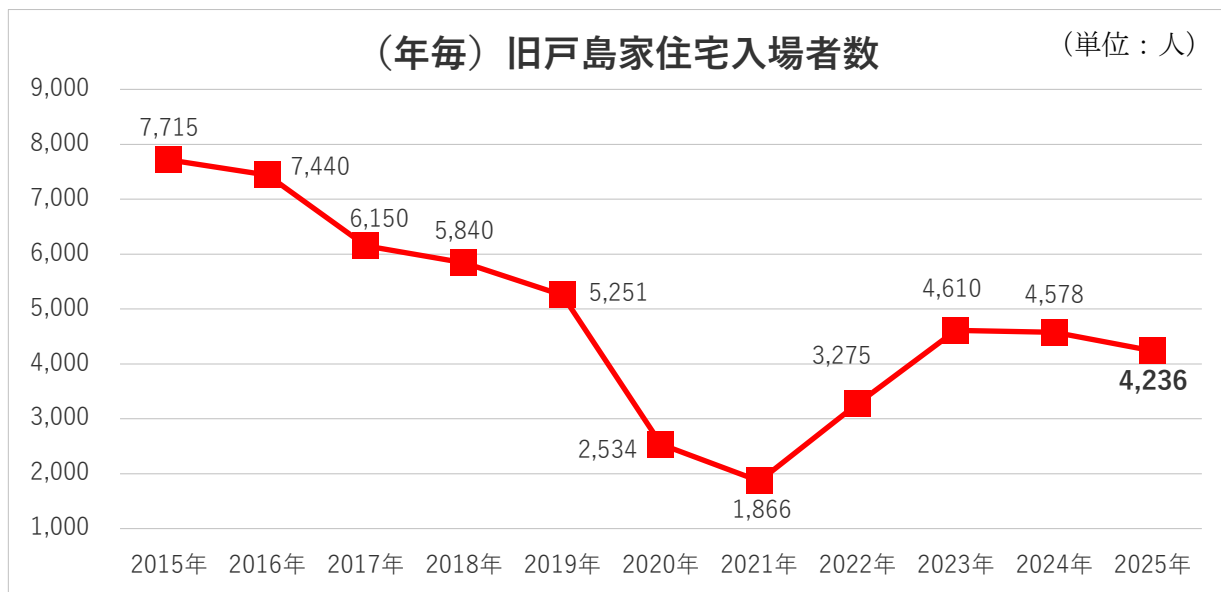
(3) 御花・立花家史料館入場者数の推移

御花・立花家史料館の入場者数は、2024年の4万5,046人から18.9%増の5万3,547人となった。コロナ前の2019年の8万1,438人からは34.2%減となった。2024年は、7月から12月にかけて行われたホテル棟のリニューアル工事などの影響により入込客数が減少していたが、2025年は2023年比で0.1%増と、同水準まで回復した。



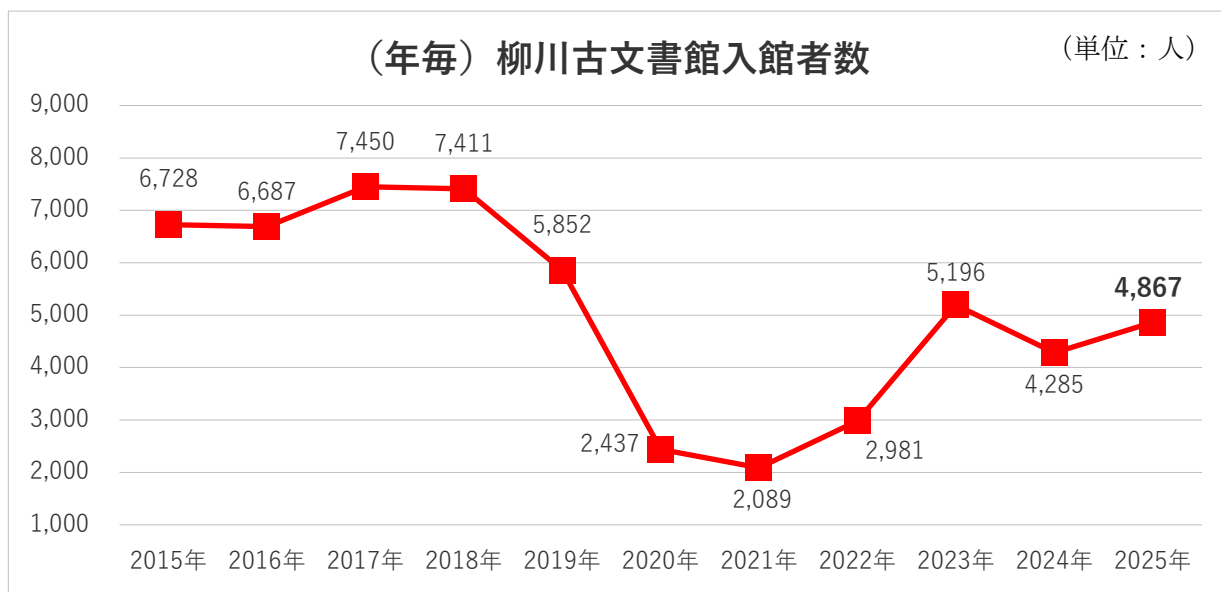
(4) 旧戸島家住宅入場者数の推移

旧戸島家住宅の入場者数は、2024 年の 4,578 人から 7.5%減の 4,236 人となった。コロナ前の 2019 年の 5,251 人からは 19.3%減となった。コロナ禍と比較すると回復はしたものの、2023 年以降は、再び減少傾向が続いている。



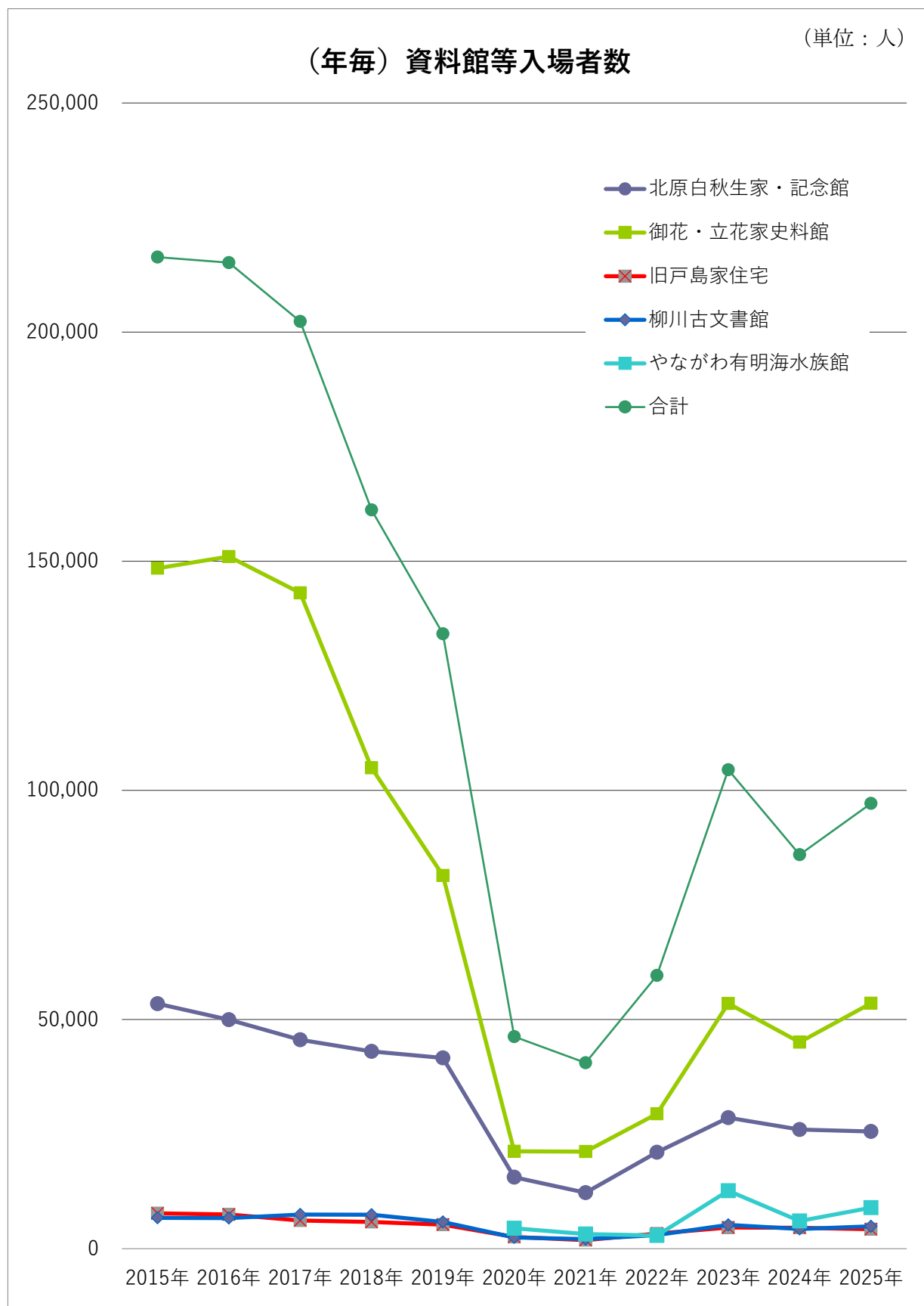
(5) 柳川古文書館入館者数の推移

柳川古文書館の入館者数は、2024年の4,285人から13.6%増の4,867人となった。コロナ前の2019年の5,852人からは16.8%減となった。これは、観光入込客数全体が伸びたことや開催したイベント展示が好評であったことが要因と考えられる。



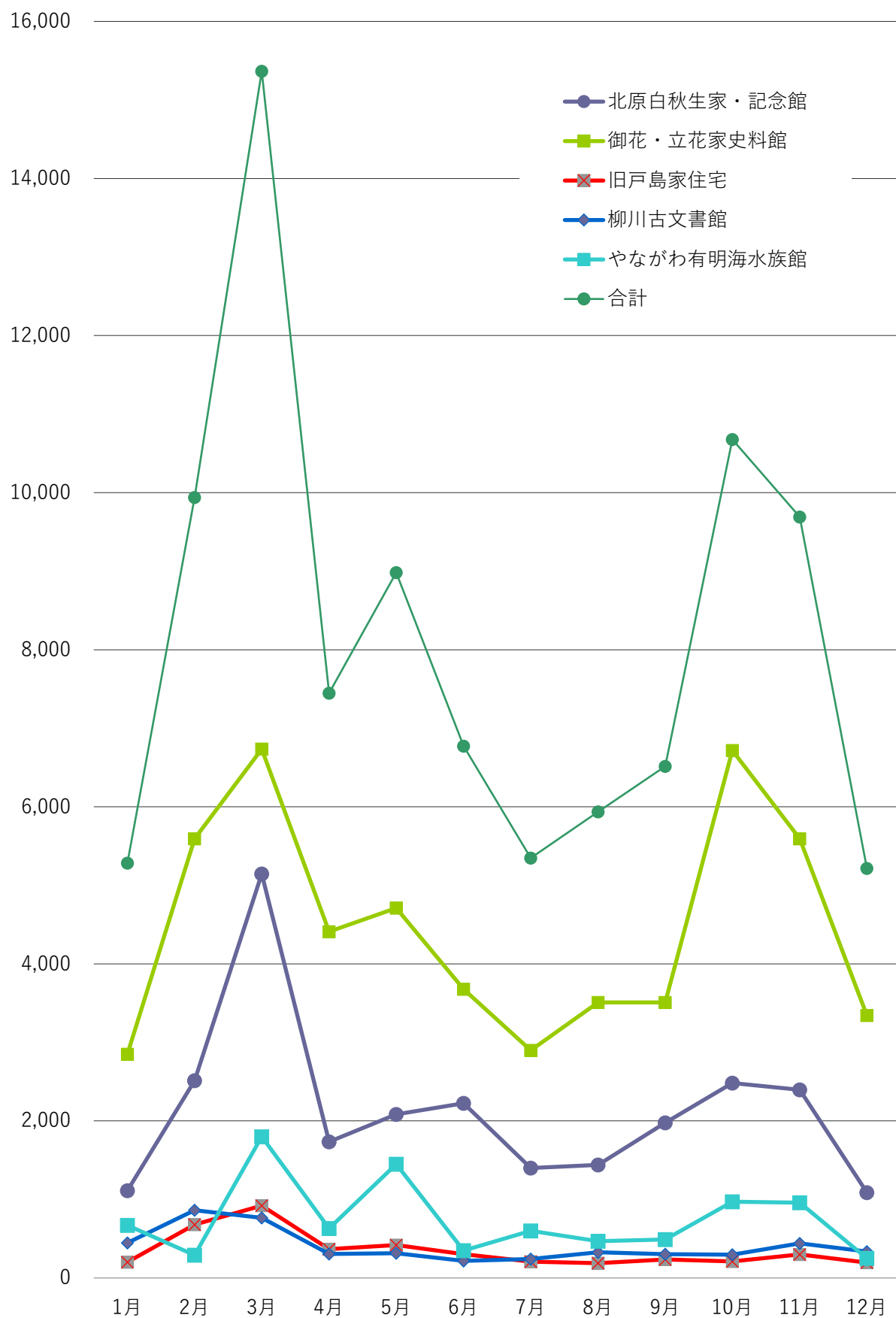
(6) 資料館等入場者数の推移

全体での入場者数は2024年の8万5,953人から13.1%増の9万7,176人で、御花・立花家史料館がけん引する形で増加している。月別の入場者数は、雛祭り期間である3月が最も多い。



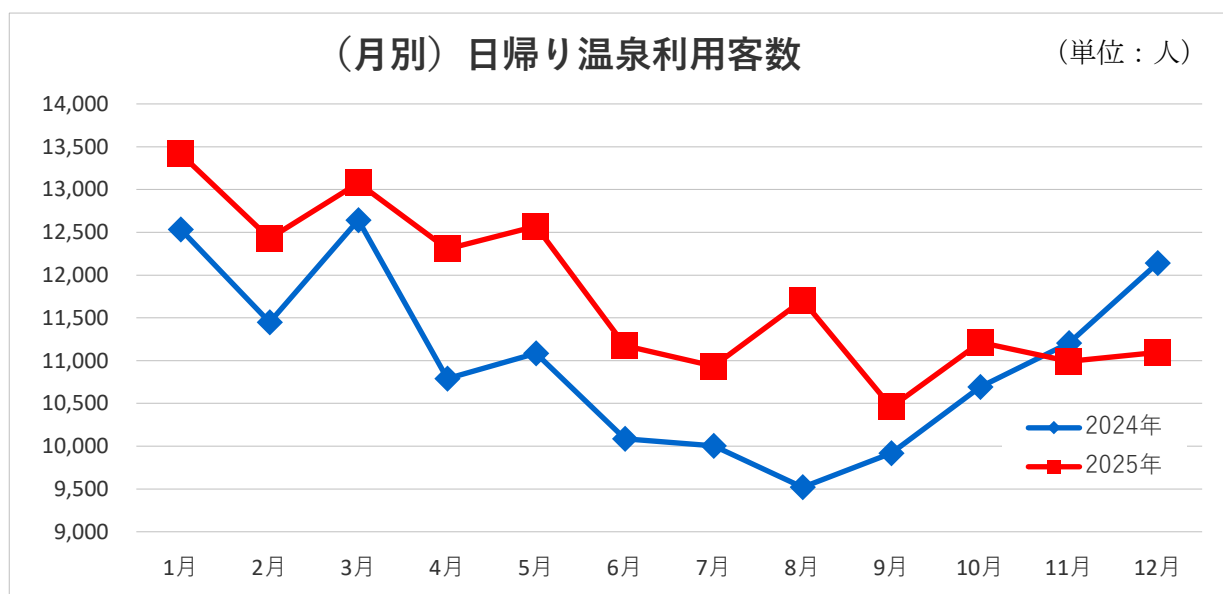
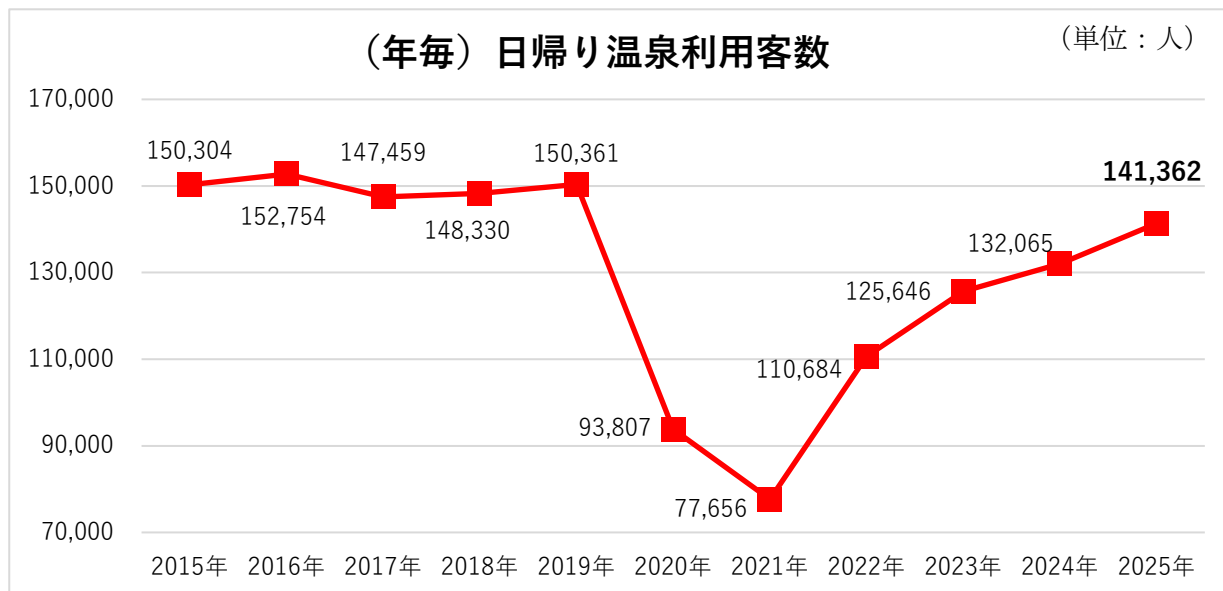
(月別) 資料館等入場者数

(単位：人)



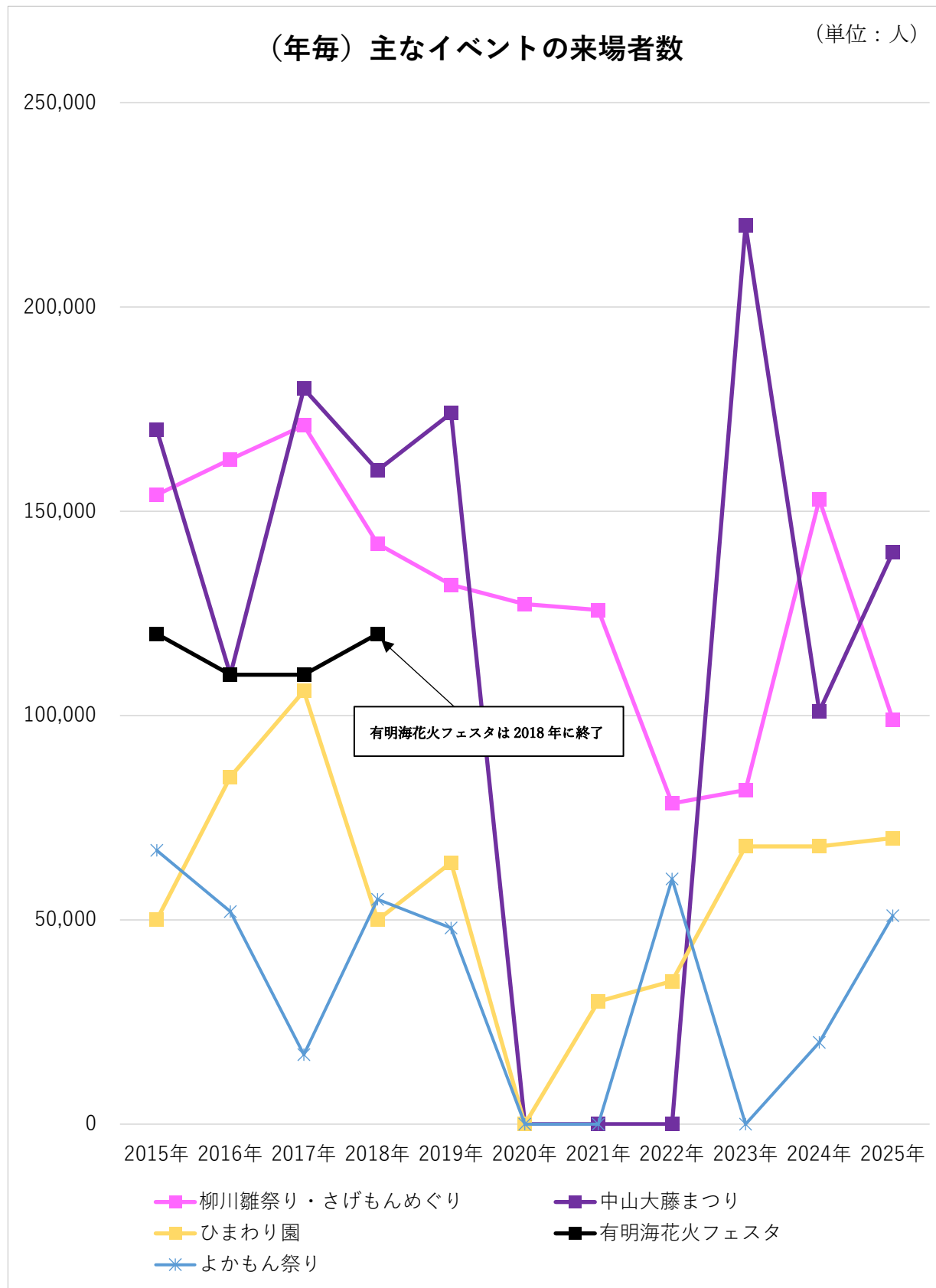
(7) 日帰り温泉利用者数の推移

日帰り温泉利用客数は、2024年の13万2,065人から7.0%増の14万1,362人となった。コロナ前の2019年の15万361人からは6.0%減となった。コロナ禍を脱し、経済が本格的に再始動した2024年と同様に緩やかな増加傾向となっている。コロナ禍と比較すると回復傾向にあるものの、2019年の水準には戻っていない。



7. 主なイベントの来場者数（主催者発表による）の推移

主催者発表による主なイベントの来場者数は、「中山大藤まつり」が約 14 万人、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」が約 9 万人、「ひまわり園」が約 7 万人であった。2024 年と比較して、「中山大藤まつり」「ひまわり園」の来場者数が増加している。

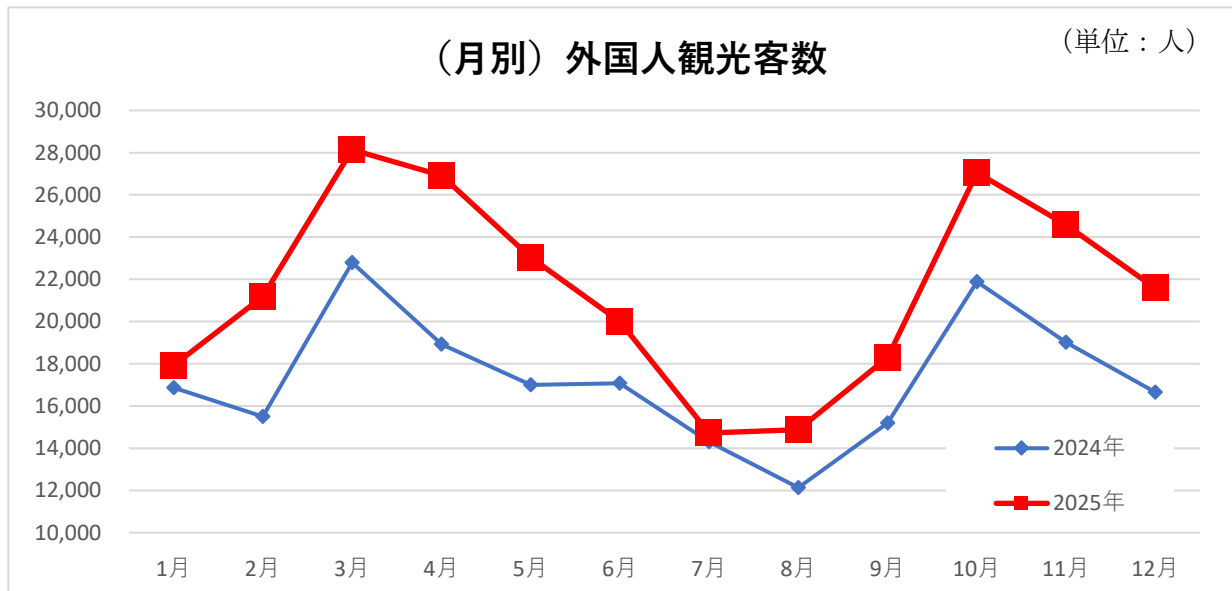
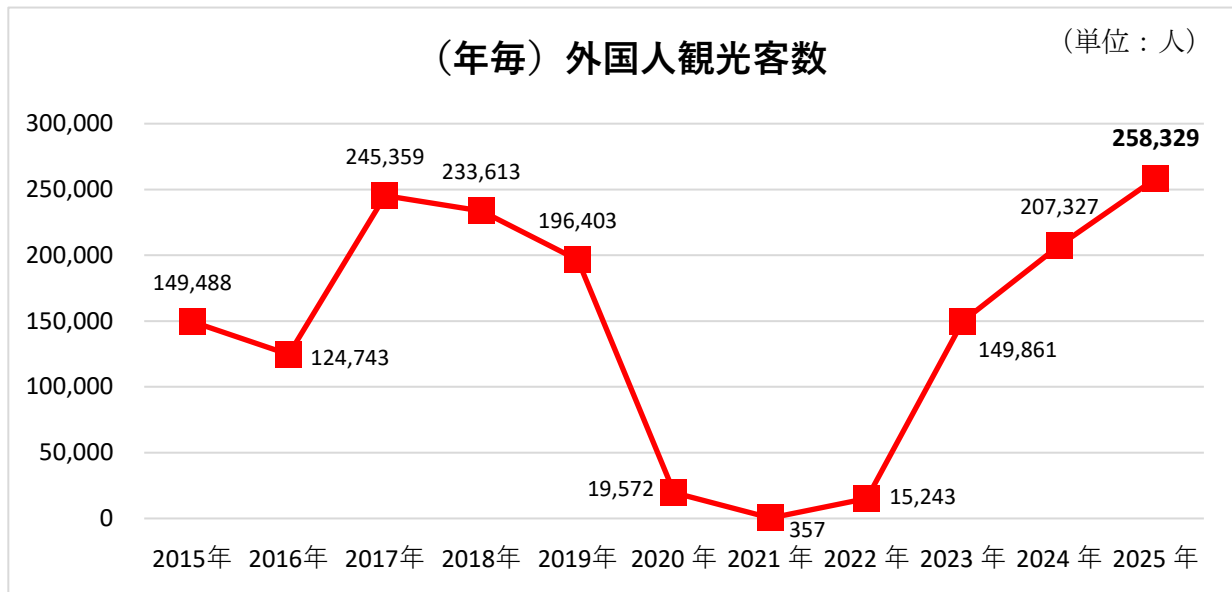


8. 外国人観光客

(1) 外国人観光客数の推移

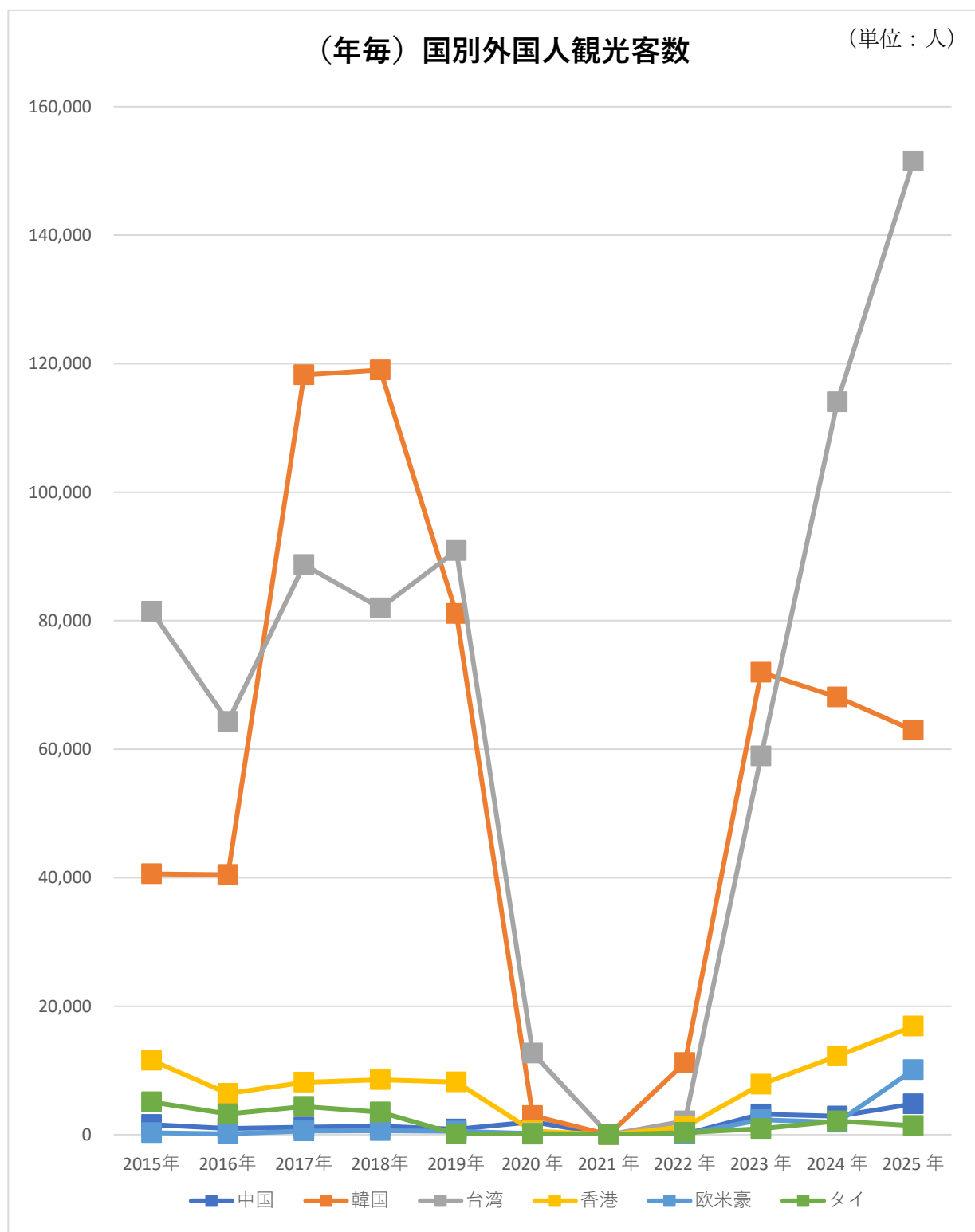
外国人観光客数は、2024年の20万7,327人から24.6%増の25万8,329人となり、過去最高を記録した。コロナ前の2019年の19万6,403人からは31.5%増となった。これは、2024年に引き続きコロナ後の訪日需要の高まりや円安の影響、近隣空港における国際便の増便などが要因と考えられる。

九州の外国人入国者数は2025年の年計で581万3,588人と、2019年の422万2,026人より増加しており、本市の外国人入込客数と同様の傾向で推移している。(出典：法務省出入国管理統計)



(2) 国・地域別外国人観光客数の推移

外国人観光客の国・地域別比率を見ると、台湾 58.7%、韓国 24.4%、香港 6.5%、中国 1.9%、欧米豪 3.9%、タイ 0.5%となった。2024 年は台湾 55.0%、韓国 32.8%、香港 5.9%、欧米豪 0.9%、中国 1.4%、タイ 1.0%で、2024 年と比較して台湾の割合が増加し韓国の割合が減少、中国と欧米豪の割合が逆転した。これは、2024 年と同様に台湾からの旅行者が増加したことや韓国からの旅行者が伸び悩んだこと、また、中国による日本への「渡航自粛」による影響があると考えられる。九州全体での外国人入国者割合においても、台湾が前年比 27.9%増、韓国 9.6%増と台湾の伸び率が増加しており、本市の国・地域別比率と同様の傾向で推移している。(出典：法務省出入国管理統計)



	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
韓国	40,575	40,452	118,259	119,016	81,080	4,585	47	11,212	71,969	68,106	62,940
比率 (国/全体)	27.1%	32.4%	48.2%	50.9%	41.3%	23.4%	13.2%	73.6%	48.0%	32.8%	24.4%
台湾	81,437	64,274	88,720	81,963	90,875	11,424	2	2,098	58,916	114,051	151,532
比率 (国/全体)	54.5%	51.5%	36.2%	35.1%	46.3%	58.4%	0.6%	13.8%	39.3%	55.0%	58.7%
香港	11,562	6,395	8,165	8,558	8,200	1,043	0	76	7,821	12,259	16,878
比率 (国/全体)	7.7%	5.1%	3.3%	3.7%	4.2%	5.3%	0.0%	0.5%	5.2%	5.9%	6.5%
中国	1,557	977	1,149	1,341	854	1,261	108	1,210	3,195	2,882	4,786
比率 (国/全体)	1.0%	0.8%	0.5%	0.6%	0.4%	6.4%	30.3%	7.9%	2.1%	1.4%	1.9%
欧米豪	欧米豪・タイは 2020 年まで集計なし						43	90	2,311	1,925	10,094
比率 (国/全体)							12.0%	0.6%	1.5%	0.9%	3.9%
タイ							4	310	942	2,133	1,408
比率 (国/全体)							1.1%	2.0%	0.6%	1.0%	0.5%
全体	149,488	124,743	245,359	233,613	196,403	19,572	357	15,243	149,861	207,327	258,329

※香港の比率の過去最高は 2013 年の 12.1%

オレンジ色…過去最高

2025 年：地域別外国人観光客数上位 4 か国

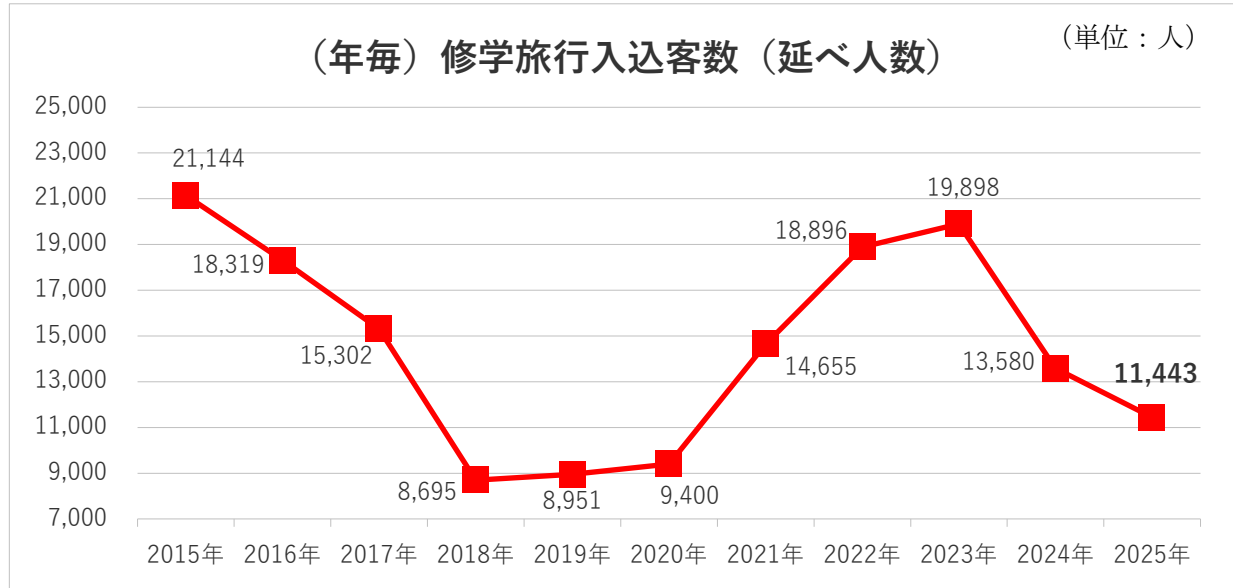
2025 年 客数	国	人数	比率(国／全体)
	台湾	151,532 人	58.7%
	韓国	62,940 人	24.4%
	香港	16,878 人	6.5%
	欧米豪	10,094 人	3.9%
	全体	258,329 人	100%

※来訪者数の多い 4 地域のみ標記しておりますので、比率は足して 100%になりません。

9. 修学旅行入込客数（延べ人数）

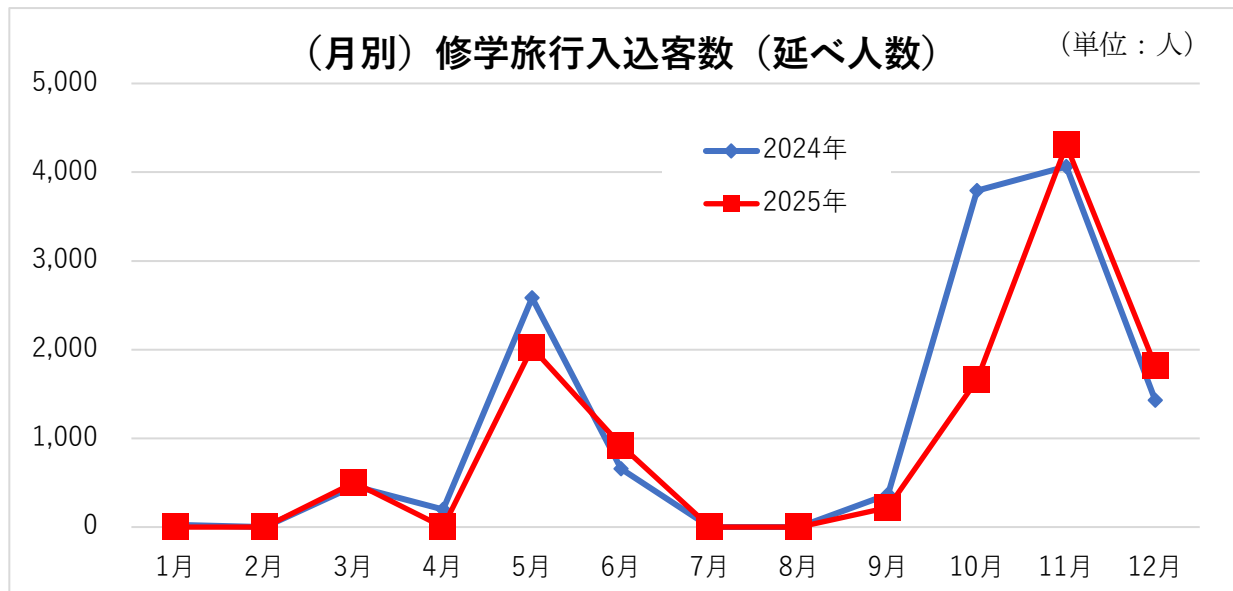
（1）年毎修学旅行入込客数の推移

修学旅行入込客数（延べ人数）は、2024年の1万3,580人から15.7%減の1万1,443人となった。コロナ前の2019年の8,951人からは27.8%増となった。2024年と同様に、コロナによる行動制限が無かったことにより、修学旅行の行先が国内外の幅広い範囲にシフトしたため、減少傾向にあると考えられる。



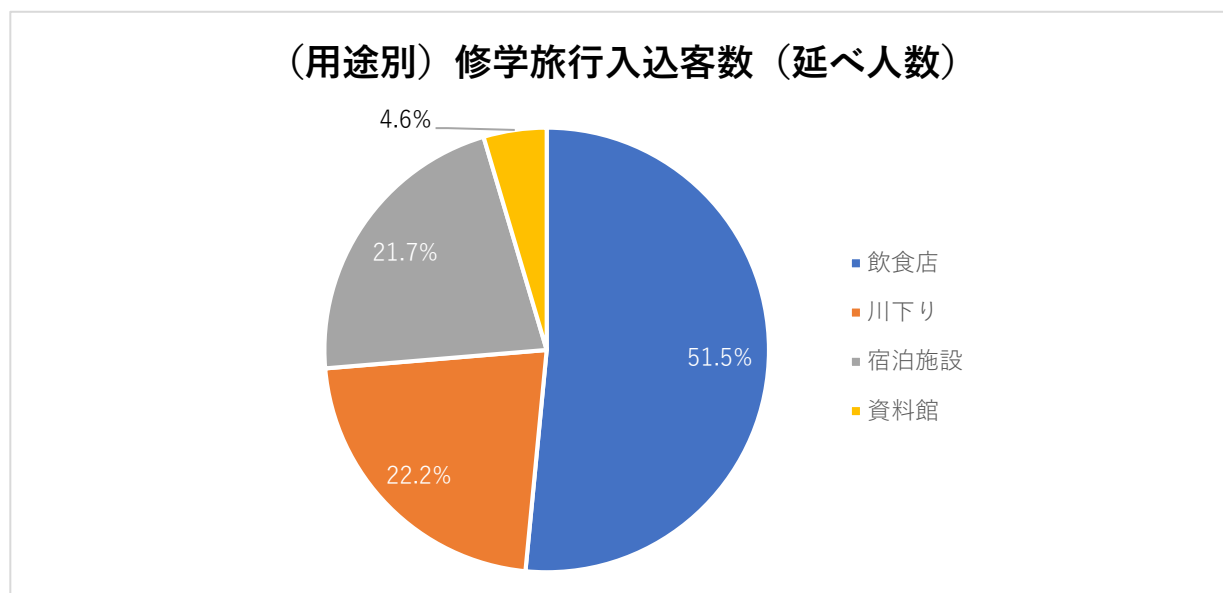
（2）月別修学旅行入込客数

入込客数を月別にみると、修学旅行入込客数は11月をピークに5月、10月、12月が多い。



(3) 用途別修学旅行入込客数割合

入込客数を用途別にみると、最も多かったのは飲食店の利用で、次いで川下りと宿泊施設の利用であった。



参考：観光振興計画の成果指標（KPI）

※2026 年 4 月策定：「第 3 次柳川市総合計画・前期基本計画」より

目標 1 観光客入込体制の充実

目標指数	基準値	目標値				
	令和 5 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
入り込み観光客数 [万人]	123.5	160.0	160.0	160.0	165.0	165.0
外国人観光客数 [万人]	15.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0

主な取組

- ≫観光従事者の後継者・人材育成支援の充実
- ≫案内ガイド人材の育成
- ≫デジタル技術を活用した多言語化やキャッシュレス化の推進
- ≫2 次交通など多様な交通手段の創出

目標 2 観光まちづくり推進組織体制の構築

目標指数	基準値	目標値				
	令和 5 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
観光客のリピーター率 [%]	55.0	67.0	68.0	69.0	70.0	71.0
観光客の再訪意向率 [%]	61.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0

主な取組

- ≫DMO 組織体制の強化
- ≫市内・市街のステークホルダーとの連携強化
- ≫戦略的マーケティングの実施
- ≫ワンストップ情報発信
- ≫観光商品開発など自主財源確保のための取り組み

目標 3 観光コンテンツの再構築

目標指数	基準値	目標値				
	令和 5 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
観光消費額（1 人当たり）[円]	5,183	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700
観光消費額 [億円]	64.0	100.8	102.4	104.0	108.9	110.6
延べ宿泊者数 [万人]	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5
有明海に関するコンテンツの参加人数 [人]	86,000	90,000	94,500	99,300	104,300	109,500

主な取組

- ≫地域資源の新たな付加価値創出（農漁業体験や工場見学など市内全域を資源とした体験型観光の推進）
- ≫「川下り」や「水郷柳川ゆるり旅」など観光資源の磨き上げ
- ≫朝夜の観光コンテンツの造成
- ≫有明海沿岸エリアにおけるアウトドア体験などの新規観光資源の創出

目標 4 市民参加による観光まちづくり

目標指数	基準値	目標値				
	令和 5 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
観光施設、街の人たちのおもてなし満足度 [%]	82.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
観光客へのおもてなしをして良かったと思う度合い [%]	37.7	40.0	42.5	45.0	47.5	50.0
観光客の満足度（全体）[%]	89.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0

主な取組

- ≫観光による恩恵の見える化
- ≫市民のおもてなしによる意識の醸成
- ≫案内ガイド人材の育成
- ≫NHK 大河ドラマの招致

10. 1969年（昭和44年）から2025年（令和7年）までの観光動態推移

区分 (年)	入込客数 (人)	観光消費額 (円)	消費額(1人当たり) (円)	宿泊客数 (人)	北原白秋生家・記念館 (人)	川下り (人)	御花・立花家史料館 (人)	外国人 (人)
1969(昭和44年)	232,630							
1970	279,390							
1971	357,710							
1972	408,850				72,037	42,855	109,320	
1973	451,256				74,214	33,243	103,366	
1974	508,087	1,033,752,100	2,035	40,055	80,508	44,456	106,039	
1975	597,803	1,641,477,670	2,746	37,033	97,352	49,856	123,439	
1976	616,128	2,179,065,660	3,537	39,124	103,597	68,680	114,753	
1977	655,332	2,459,792,040	3,754	40,932	128,433	102,997	148,673	
1978	634,854	2,472,051,540	3,894	42,182	124,538	98,099	151,273	
1979	647,202			50,552	139,320	121,852	177,761	
1980	709,273	2,755,995,340	3,886	48,218	151,138	130,669	194,261	
1981	744,720	3,097,512,020	4,159	56,413	147,069	134,002	194,062	
1982	775,255	3,206,645,290	4,136	60,434	158,724	140,535	192,787	
1983	804,111	3,343,847,850	4,158	60,989	164,385	171,685	184,687	
1984	851,100	3,577,549,060	4,203	66,092	188,851	204,694	207,258	
1985	877,500	3,708,718,000	4,226	69,588	203,235	201,337	227,732	
1986	878,000	3,742,323,540	4,262	64,465	205,761	215,168	212,205	
1987	902,000	3,896,384,900	4,320	69,670	208,531	222,785	209,393	
1988	888,500	3,891,563,010	4,380	74,226	201,126	224,917	201,405	
1989(平成元年)	986,200	4,353,949,920	4,415	69,568	214,284	289,380	245,453	
1990	980,300	4,337,242,420	4,424	71,191	197,535	293,099	216,185	
1991	1,117,800	5,139,087,360	4,598	105,828	217,035	362,896	267,613	
1992	1,197,100	6,167,183,200	5,152	101,016	229,743	387,582	293,051	
1993	1,152,700	6,207,328,330	5,385	100,389	207,463	375,733	280,705	
1994	968,300	5,324,329,790	5,499	97,572	166,204	295,329	230,247	
1995	993,500	5,619,051,770	5,656	107,268	160,912	314,704	227,629	
1996	1,032,800	5,847,380,200	5,662	106,641	156,935	340,633	210,951	
1997	1,046,800	5,987,902,950	5,720	99,672	148,600	349,470	235,317	
1998	1,051,500	5,581,155,800	5,308	91,652	140,444	365,383	241,808	
1999	1,052,700	5,436,385,650	5,164	79,390	127,629	389,137	241,563	
2000	1,053,600	5,343,206,400	5,071	70,971	127,665	386,447	242,552	
2001	1,071,800	5,529,153,600	5,159	78,747	118,430	407,354	260,742	
2002	1,073,000	5,460,435,800	5,089	70,135	106,171	411,470	251,005	
2003	1,112,100	5,555,540,000	4,996	65,259	104,474	400,450	237,138	
2004	1,290,000	6,089,742,100	4,721	63,544	82,945	344,864	237,700	
2005(合併後新市)	1,203,000	5,137,591,000	4,271	60,397	80,854	341,573	213,500	
2006	1,255,000	5,312,082,178	4,233	62,434	82,611	359,598	231,150	
2007	1,218,000	4,935,041,637	4,052	54,879	89,099	356,380	188,206	
2008	1,171,000	4,836,692,287	4,130	52,408	77,890	320,943	159,160	
2009	1,156,000	4,783,851,178	4,138	51,548	75,434	316,483	161,342	10,603
2010	1,159,000	4,689,542,363	4,046	42,239	65,149	315,702	133,429	21,506
2011	1,055,000	4,350,205,000	4,123	38,525	59,905	283,960	150,951	24,024
2012	1,173,600	4,537,631,300	3,866	41,710	56,857	292,154	137,990	36,954
2013	1,245,200	4,855,784,250	3,900	41,902	53,634	342,512	149,043	65,727
2014	1,259,700	5,229,003,217	4,151	41,634	55,005	348,566	156,038	90,383
2015	1,366,800	6,064,163,000	4,437	46,942	53,458	388,444	148,459	149,488
2016	1,316,000	6,120,981,000	4,651	51,534	49,979	340,317	151,029	124,743
2017	1,418,400	6,767,747,000	4,771	81,384	45,601	428,388	143,115	245,359
2018	1,364,000	6,647,330,000	4,873	95,776	43,035	422,671	104,938	233,613
2019(令和元年)	1,252,000	6,322,770,000	5,050	100,584	41,613	365,266	81,438	196,403
2020	513,500	2,869,180,000	5,587	67,085	15,592	87,410	21,233	19,572
2021	487,500	2,697,550,000	5,533	68,485	12,219	74,770	21,178	357
2022	686,600	4,108,770,000	5,984	119,007	21,058	152,615	29,422	15,243
2023	1,234,800	6,400,040,000	5,183	120,002	28,570	386,031	53,503	149,861
2024	1,209,100	6,898,590,000	5,706	120,268	26,009	407,016	45,046	207,327
2025	1,308,300	7,643,240,000	5,842	127,151	25,596	447,671	53,547	258,329